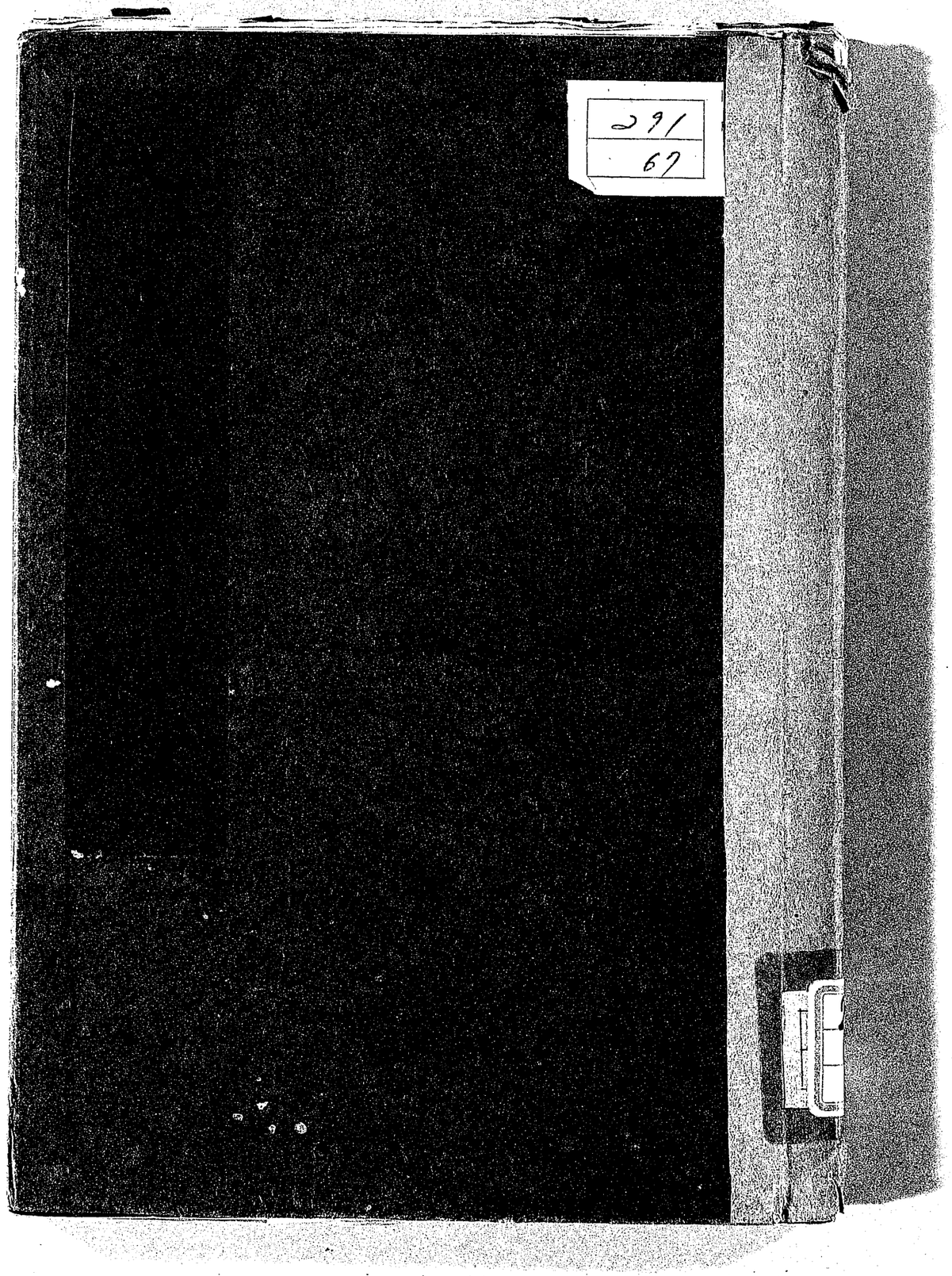


県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

221
62

太田城水責諸記錄

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

太田方

太田左近 二郎 三郎 〃 〃 四郎 〃 〃 〃 太郎二郎 〃 〃 〃 吉田吉左衛門佐 孫太夫 〃 黒田吉内 村上九郎 〃 〃 〃

太田附由来并絵巻由緒之事 一

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

明和五年ノ記

目録

太田城水責之由緒（一冊写本太田為三進呈本）

本書ハ田中叢忠氏ノ太田城水攻史所載「太田城由来并
縁立由緒之事」「太田城水責之次第」及ビ改正史料
集、資所収「太田水責記」「大田水攻ノ記」等ヲ参照シ
ノ上ヨリ見ヤスキ様書ノ原本トスベキモノト思ヒテ
茲ニ写ス

本書ノ記事ヲ実録トスルニハ疑ハシキ点モ
アリ

根来焼討太田責細記

太田總覚寺中古縁記

太田城由来并縁立由緒之覚

（太田城水攻史ヨリ抄出）

太田
土橋 三左ヱ門
平 二
〃 三
〃 八
沼川平蔵
松象四平
誓誓孫右衛
魯田孫三郎
岡 平大夫
八 左ヱ門

昭和五年八月六日氏名抄写ス。
ここんこと思う筆ケリ

根来寺ノ寺跡七十万石ノ内 是レヲ城方ナシレヤ原ノ
ニ郷ヨリ衆徒ノ方ヘ及ビ勢力ノ後リタルヲ、加ヘ
秀吉ノ為ノ根来ノ滅ヲ 太田ヘ及ビ 実ニ秀吉ノ
亡カレタリ

高野山 根来寺 雄望 生薬寺院ノ勢力アリタルヲ知ル。本誓寺ノ分論ナリ

中根文庫資料

目録

太田城水責之由緒（東寫本太田為三進呈本）

本書ハ田中叔忠手ノ太田城水攻史所載「太田城由来并
縁之由緒之事」「太田御水責之次第」及ト改正史料
集貢所収「太田水責記」「大田水攻ノ事」ヲ抜萃シ
タルモノ原本トスルモ其ノ記事ヲ省略シタル
箇所尠カラス以下筆者

太田城水攻史ヨリ抜出

明和五年ノ記

天保二年ノ記

根来焼討太田責細記

太田總光寺中古縁記

太田城由来并縁之由緒ヲ要

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

太田源三大夫宗覺書

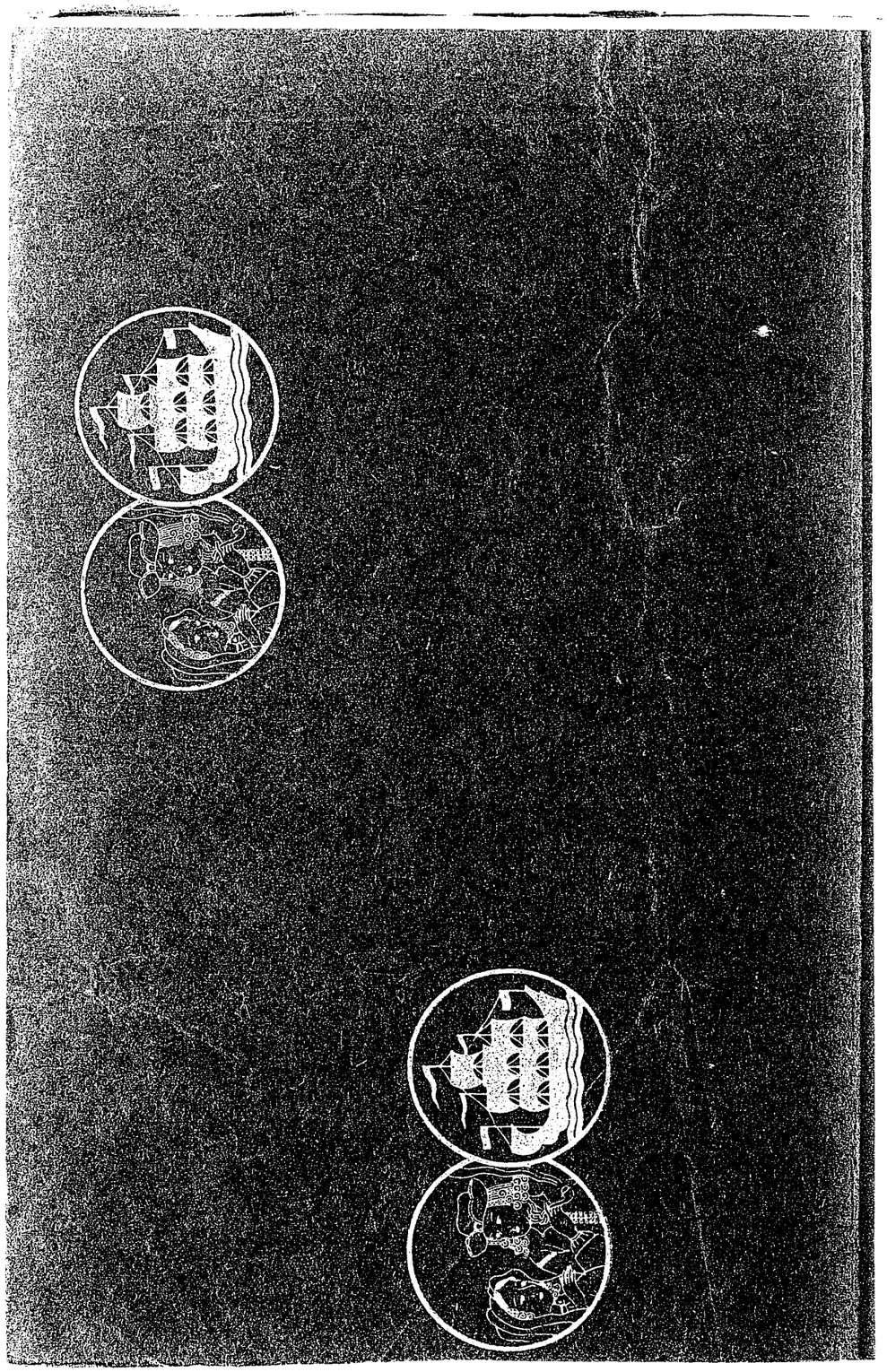
太田水書院（改正史料集覺書ヲ指ス）

太田陣址ノ事（紀伊續風土記ヲ指ス）

中根雖菴曰此日記ノ二十丹經義ヲ所指ヲ

又曰太田陣址ノ事ヲ指ス

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993



県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03993

291
67
1

天正拾三年

太田城水責之由緒

一冊 三月

名古屋市教育委員会
28.12.21
愛知県 3993

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

一先年年部那智名草海士於西郡者皆地勢高峻所也

一当郷於北ノ村并太田郷村ハ毛見郷内原郷小宮郷田屋郷板田郷北田郷神谷郷神前郷八毛郷秋月郷津素郷有家郷黒田郷世ニ太田郷

一雑賀宮郷内ニ三拾六ヶ之社ノ所ヲ雑賀庄、奪ヒ取ん[ママ]として有須掌ヲ庄ヲ囲ヒ一企謀計諂諛ヲ申ニ付雑賀ヲ会義ニ大軍ヲ以攻入太田城ヲ小勢ニ而根来法師ヲ悉ク焼殺シ頼ヲ向方ヲ根来ヲ手ヲ合ヒ相図ヲ以取巻

先年信長記ニ神宮郷上下二ヶ村下ノ宮ニ元ヨリ十三軒有ノ村

一当郷ニ社寺人家ニ寺領ヲ

社地

出墨　新出墨　船屋　南宮墓　紀三井寺　新宮家　吉田　新内　鳴神　出墨

雑賀ヲ誅伐ヲ云

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

事ニ候ニ付無
信長公御馳走ニ而政道・秩序為ニ思召ニ而
中上ニ而今度被差出候ニ付而馬ニ而大田城へ
御出候ニ付而早速被仰付
方々数屋第ニ御軍大将ニ而
大田へ御越候ニ付而人馬共ニ如何程ニ而
被仰付ニ而も御請を申
左中津ニ城へ御着ニ而
天下ニ錯大儀ニ候ニ付而信長公へ御礼
被申ニ而候ニ付而信長公御雑賀
方信長公ニ被為下候
三方又ニ寄有

大坂

請満ニ候間
云扇方ニ大坂
ニ無之

一本願寺ハ門跡大坂寄陽ニ城ニハ左住ニ付天正五年ニ
丑五月信長公ニ被為成ニ御陣ニ被為成ニ候ニ
ハ門跡ニ方ニ而ニ所ニ先ニ而ニ大坂ニ
第ニ方ニ大田城ニ方ニ御来住ニ候ニ
郎四郎方ニ三四郎ニ三人ニ而ニ
所知ニ剰ニ一僧ニ入ニ
為ニ祝儀ニ三人ニ
僧ニ大田城ニ
京次郎、源五郎、真福寺、善三
寺ニ大坂ニ

一僧ニ

の者中掛を誓句を以て信長公へ降参仕候
と真壁(攻カ)より太田城へ遣使を以て降参
皆を以て降参を旧心者不思議(不カ)
旧を追放をけれを三人の者共
な数一味同心及一和(誓句方)を以て
縄等を差を結句(かた)誓句を以て押寄申候
翌日所と不残(一カ)悉(ことく)搦捕(とり)と噂之
小牧原
一天正拾壱年中(癸カ)歳
家康公小牧御陣(陣カ)を時は味方(カ)佐を探(さぐ)ること井上を初
頭取使者(カ)として被為仰下(おおせくだされ)候
根来雑賀中郷、

南郷、雑賀在(ざいご)等(とう)地士(じし)共(ども)方、太田城(カ)へ廻文を遣
し太田左近(将監)同源助(カ)同三郎(カ)太夫(カ)同次郎(カ)同次郎、同源
三太夫(カ)同太郎次郎(カ)同源十郎(カ)同善五郎(カ)同
真福寺(カ)里田村(カ)去田村(カ)恒楽(カ)同戸口(カ)恒村(カ)鳴神(カ)
川村(カ)山本(カ)吉村(カ)星田(カ)を等(とう)を始(はじめ)都合三千六百人根来、
泉(カ)堺(カ)を始(はじめ)三人(カ)雑賀(カ)より日前宮(カ)へ本軍一味(カ)
則(すなわち)太田城(カ)へ相加(カ)小牧(カ)中陣(カ)へ飛脚(カ)として
太田城(カ)へ無(なく)異(カ)心(カ)血判(カ)を書(かき)札(カ)を初(はじめ)
太田城(カ)へ無(なく)異(カ)心(カ)誓句(カ)を中(カ)へ入(カ)申候(カ)仕(つかまつり)候者(カ)
こと(カ)仕(つかまつり)候(カ)上(カ)之(カ)処(カ)に(カ)こと(カ)
(裏)(裏)(裏)

労を惜ミ止ること山家入敗の様ことの哨朱印至ニ解除ヲ為
は葭葉ニ折(くじ)葉のはし神一
なきを中へ入秋ニ家作帰
を半一面ニ人寄合一ニ羅有ハ朱印頂戴仕則哨朱印
ニ泉寺指ニ頭サ雲日限ヲ定泉谷表ニ先陣一根来
等ヲ始下泉の一撰根来衆者猶表ニ陣取後ヲ五ヶ
ヲ待ニ合ヲ廿ヶ所ニ寺ヲ和田ヲ(雑賀)衆中村ニ在平次軍
ヲ根来衆ニ者猶退通一後ニ続五ヶ(くみ)ヲ振舞ヲ
陣中ヨリ新ヲ七騎ニ敗双方手負討死ハ(多和田)数ヲ
廿日ニ五郎退陣給陣ヲ定ニ人数ヲ備負家ヲ
ニ先陣者川退(引)ハ雑賀衆ヲ定留入乱(引退)味方者数
ニ(残)ハ高野山指(差)向ニ紀州ヨリ

雑賀ノ兄弟ハ我先ト追掛阿辺中ニ寄暫
時錯合致候内ニ大田左近ハ須次第ニ
二ノ次第ニ一ニ五日ニ(引退)ハ雑賀衆ハ
ニ討者ニ騎川中ニ紫(雑賀)衆倒首討捕ヲ歓ニ(喜)
ハ(引退)衆山ヲ和田陣ヲ(雑賀)追ニ中ハ足ヲ(引)味方ヲ切ハ
相図ニ太田根ハ中村ヲ陣(雑賀)
取ニ陣四ヶ所ヲ者ニ(雑賀)川ヲ(引)休追致ニ無和ニ孫平
次ニ陣ヲ大木山ニ(雑賀)川ヲ(引退)陣ヲ(雑賀)衆ハ(雑賀)和田陣ヲ攻ニ(引)ハ孫
平次ニ陣ヲ大木山ニ(雑賀)川ヲ(引退)陣ヲ(雑賀)衆ハ処ニ日ハ及暮ニ立ニ(引取)物陣
来ル廿日早朝ニ太田ヲ(雑賀)衆ヲ者大木山ニ陣ヲ廿内ヲ(雑賀)ヲ
ヶ申ノ刻ニ至追攻敵味方ヲ切川(雑賀)退処ヲ中村ヲ大田根ヲ
者ハ所ニ納ヲ討ヲ出ヲ(雑賀)ヲ者ハ表ニ成根来ヲ切ニ所急ニ(攻)
ニ五ヲ馳下ル五一方ヲ入乱相敵首数多(雑賀)衆人数者

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

今在垓城

沢、佐野ニ築城
不詳

振来、大内、今吉
和睦ス

追敵堺辺近ク令放火一中村城ノ泉ニ一砦ヲ人ニ預置中ノ為
警戒陣所ヲ構
給所ヲ遊ク由及聞ケ之ニ手ヲ打ヶ帰
陣候、其ノ夜ヨリ泉ノ千石垣ニ城ヲ根来法印ヘ築城
澤ト佐野ヲモ城ヲ作リ三ヶ所ニ六人ヘ築城仕ル相談ニテ要
害ニ正兼ヲ以テ玉薬多ク置明ル日完ヲ
有程ニ所ニ楯籠ル手ヲ明ル(天正十三年)四ノ三月上旬ニ寄セ公平ニ取ル方
針ニ泉刀表ヘ上ル為ニ当ノ千石垣ヲ始ヨリ攻ケ築城
ス勢ヲ城ヘ入レ江ト佐野ヘモ築城ノ積ニテ惣而猶予ナル
ニ付テ九日ニ於原ニ人数ヲ備ヘ三月九日ニ
九三ノ二羽柴美濃守殿ヨリ使ヲ寺務ヘ被差下ル
小牧ノ陣ヲ向程現状ヲ聞ク為ニ下置ル由ニ付テ根来
泉ヘ之ニ於テ置ヲ表根来寺ノ泉ヨリ何方ヘ
ムカフヲ知ラヌ

振来、大内、今吉
和睦ス

帯刀ノ紀伊ヲ名乗
藤直ノ事

狩取行ヲ行ハル知不ル中ヲ延ルニ遅ク後ニ十二佐国相
果ル由及聞ケ其ノ寺ヲ跡ヲ寺来ル十ヲ者奏聞ス
持ヲ紀州ヲ境ヲ住人能ノ孫ノ後右取門ト申者土ヲ
ラヒ条帯朱印ヲ安ク三ヲ六人ヲ四ヲ人ヲ減
ス井ニ入現ヲ者共ヲ刀取ノ偽ヲ差上ヲ二ヲ
取捨ノ了ヌ遅ク年ニ
三十六人ノ内ヲ孫太
次郎、日本寺次郎ノ
寺、黒田ニ黒田吉近
根来ヲ夫、村ヲ
根(ネ)ノ内ヲ云、日太田、根来
村ヲ根来寺ヲ云ヲ。

日莅三年、有司等右衛門、小神前を嶋村境迄、中島村を嶋田新三郎、川村を山庄無之助、中山を紙川村を田六郎左衛門、日長峠を前谷迄小人頭を以て請取、永八年寺社奉行安藤左京亮殿、勝手掛仕切御勘弁を以て、去ル子ノ年より御用捨被仰渡候処、多年懸案寺社奉行及び諸掛り役人立会の上、左の通り取極め候間、向後は右境目一径たりとも無断踏入間敷候

　　誓詞前書

一、当国と駿河国とお果保二ノ一件以来、互に境目を犯さざる事

一、境目に於て、万一不慮の儀出来候節は、双方より早速注進致すべき事

一、境目に於て、万一不慮の儀出来候節は、双方より早速注進致すべき事

一、境目に於て、万一不慮の儀出来候節は、双方より早速注進致すべき事

以上

右条々違背仕るに於ては、梵天・帝釈・四大天王・日本国中大小神祇、殊に武蔵国金鑽大菩薩・富士浅間大菩薩・箱根権現・三島大明神・八幡大菩薩、別して当国一宮小野大明神、二宮寒川大明神、三宮前鳥大明神、四宮金山大明神、五宮白山大菩薩、惣じて六十余州大小神祇、冥罰を蒙るべきものなり仍て誓詞如件

文化十三年三月廿二日

　　羽柴美濃守

　　奉行

　　次入城頭中

水責

一、文化拾三子年三月下向

秀吉公紀州へ御出世の時根来寺を焼き給ひ寺僧を討死致され候節、根来始末政所の家現来

炊（カシキ）喝食カ

児炊（カシキ）而已（のみ）なれ時ニ孝（孝）定（定）カ

致ス由ニ孝（孝）定（定）カ答（答）ル旨ヲ以テ大田城（おおたじょう）ヲ始（はじめ）テ

在（あ）ル小諸（こもろ）ヲ二（に）ノ中（なか）ニ挟（はさ）ミ城（しろ）ヲ攻（せめ）テ

陣（じん）上（あが）ラ与（と）及（および）ス未（いまだ）ス依（よって）テ

北（きた）ノ郭（くるわ）ヲ焼（やき）払（はらい）大（おおい）ニ勢（いきおい）ヲ振（ふるい）

雪（ゆき）ヲ冒（おかし）西南北（せいなんぼく）ノ方（かた）ヨリ篝（かがり）ヲ焚（たき）

会（かい）ヲ為（なし）且（かつ）攻（せめ）且（かつ）和（わ）ヲ通（つう）ス（す）

ル方（かた）ニ角（かど）ヲ立（たて）ル端（はし）ヲ

通（かよい）物（もの）ヲ与（あたえ）ル等（など）ヲ

ノ（の）ミ

手（て）ヲ不（ず）明（あかさ）

激（げき）士（し）ノ勝（かち）誇（ほこる）ヲ

相（あい）ノ相（あい）添（そえ）ル

ル大（おおい）ニ探（さぐる）リ孫（まご）カ孫（まご）ノ孫（まご）ヲ経（へ）テ

い一（いち）期（ご）ヲ大事（だいじ）ヲ

種（たね）ヲ探（さぐる）リ

訳（わけ）ヲ

両（りょう）家（け）ノ傷（きず）ヲ

仍（よって）テ

城（しろ）ヲ

悔（くやん）テ

吉（きち）ヲ

迫（せまる）ル

なく降（くだる）ル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

宜ノ字不宜也

別ノ字置カ

城内ノ井ノ水増上ノ城ノ深水ノ壁ノ字ノ誤カ

城等ノ断筋カ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

其上を辻を以堅ノ幸経却又大将分て百人余阿蘇甚助皆ニ領内ニ
（阿蘇ノ惣領ノ誤カ）
路夜ニ四方ヨリ逆足を出一族を呼ニ所ニ四月五日ニ夜半時分ニ敵方より海
（午前）
辺ニ吉兵衛と申武者
（武士）
後人数を見付狼火を出し
（のろし）
為ニ呼ニは機嫌悪く候ニ
（よく）
昌ノ将達
（ママ）
大将を名のりけるニ
（ママ）
城内ニ有千貫三人計
（ママ）
鑓を以漕ニ三太余人又討死ニ
（ママ）
七日ニ延敵方ニ仰者共
（ママ）
ニ入ル
（ママ）
逆足ニ後ニ
（ママ）

（阿蘇ノ惣領ノ誤カ）

大将分の手ニ
（ママ）
ニか不知
（ママ）
城内ニ
（ママ）
引取ニ
（ママ）
上向ニ
（ママ）
月廿一日ノ刻
（ママ）
仰ニ
（ママ）
敵ニ
（ママ）
大将野
（ママ）
甲ニ
（ママ）
白波
（ママ）
申ニ
（ママ）
貧前物
（ママ）
身は何
（ママ）

如此大きニ
（ママ）
大勢ニ
（ママ）
第ニ
（ママ）
廿三日ニ
（ママ）
ニ
（ママ）

三十人首

許セ七一ノ抹ヲ拭ヒ物ヲ手ニ集リ迎ヘ
告ゲ五ヲ六人ヲ対ヒ遣ハ及ビ和ヲ談ス
委ネ公事失印ヲ通ヒ羽葉ヲ隔テ十ヲ
ヲ老阿ヒ通ヒ幹ヲ預ケ資ケ古ヲ墓ヲ改ヒ
久ヲ衣ヲ通ヒ旧ヲ結文ヲ通ヒ高ヲ古ヲ太田ヲ借ヲ古ヲ文
ヲ右ヲ先ヲ乱ヲ叶ヲ筆ヲ二ヲ古ヲ深ヲ年ヲ士ヲ命ヲ人ヲ由ヲ第ヲ
銘ヲ誉ヲ通ヲ語ヲ伯ヲ々ヲ拭ヲ父ヲ妻ヲ死ヲ言ヲ分ヲ如ヲ件ヲ
上

木責之図

一木責ヲ根源者右文言ヲ通
語ヒ廻リ五ヲ三ヲ化ヲ集ヲ
日根言ヲ六ヲ向ヲ投ヒ向ヒ
日言ヲ向ヲ手ヲ外向ヒ
集達人ヲ六ヲ万ヲ九千ヒ百人余

三十三

三十六万八千三百人余ニ

天ヲ十二歳

四ノ二月

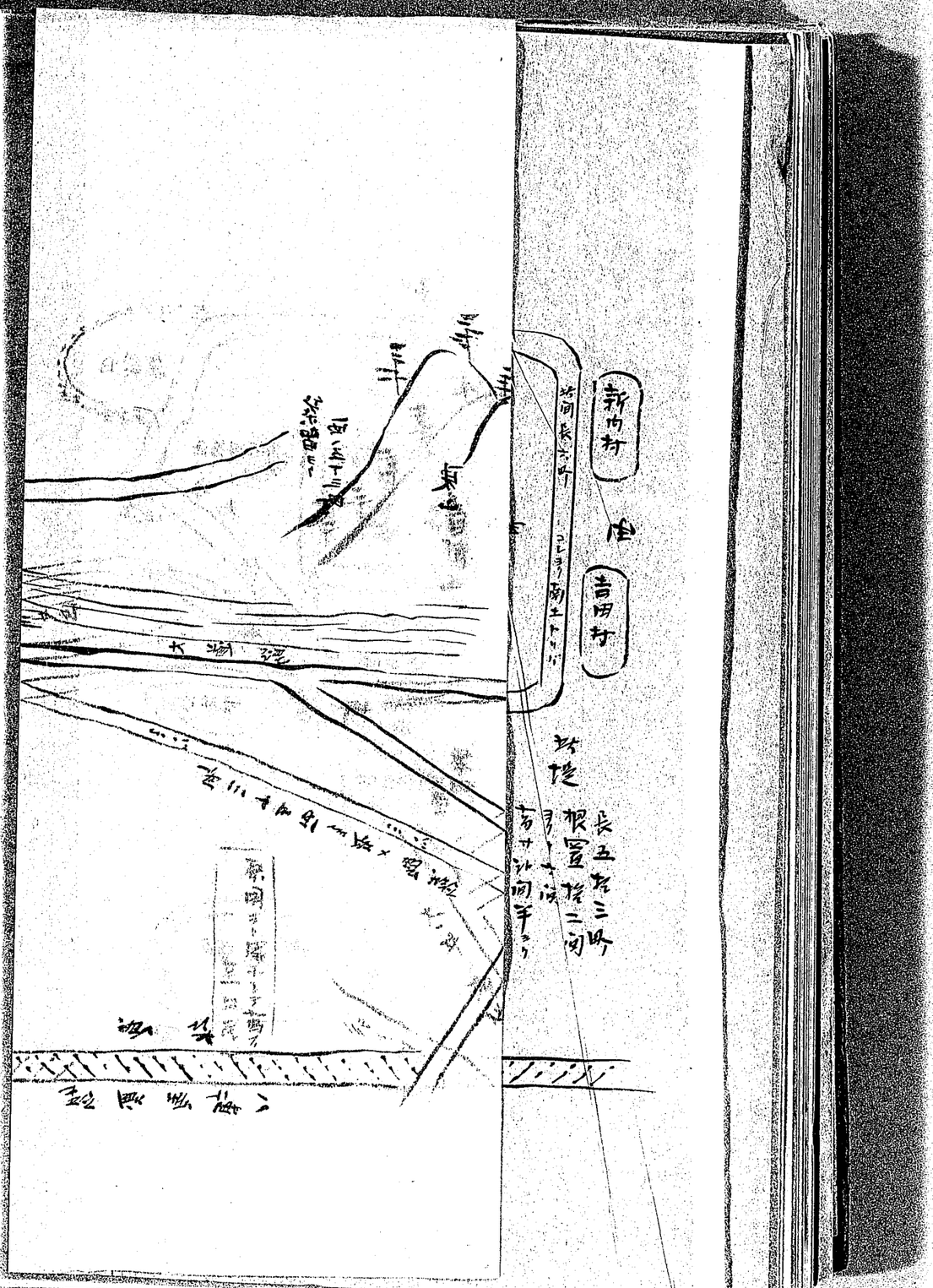
一天田屋帳上書　　寛永三年
前書　　四才二月吉日

一株(ムロ)を始売左衛門迄名前相改人
仕左右等之也

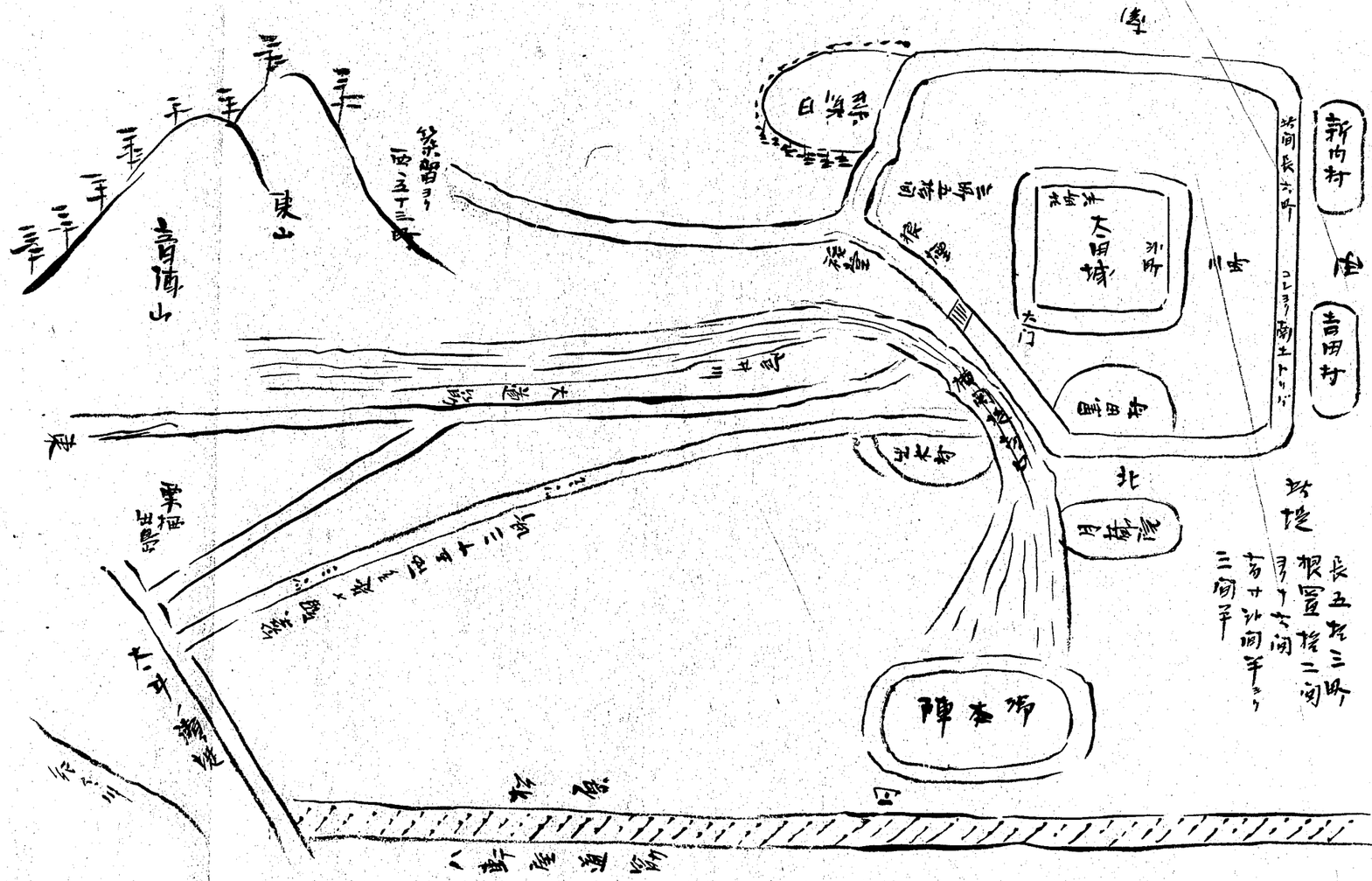
右之家中上下諸役を猶許状
申ノ二月十四日

一奉公を係ハ於七歳ゟ出ハ
其年ゟ御免之節七歳ゟ
時分相立事

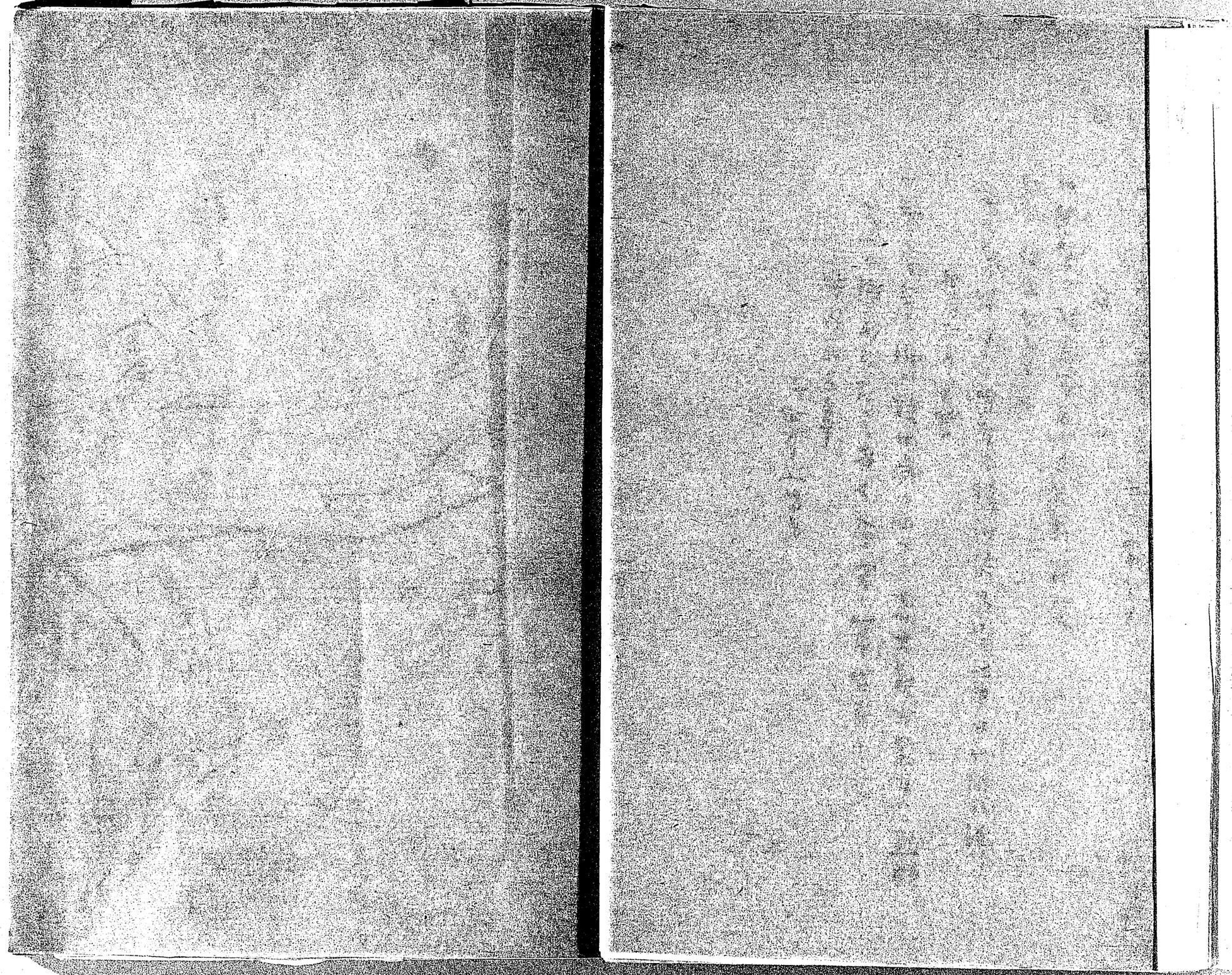
子四月八日



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993



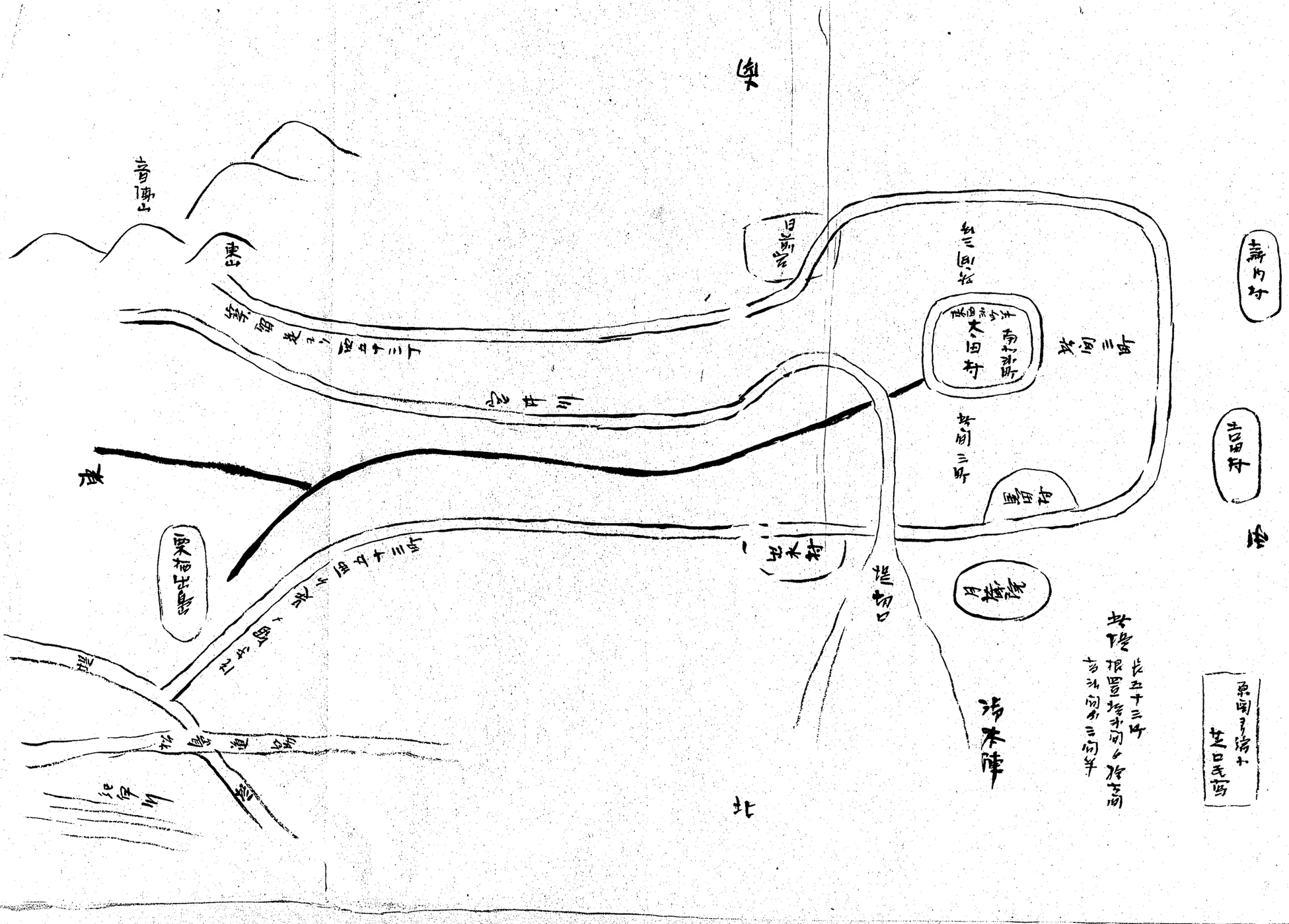
県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

附本書原本ヲ左記ノ記録ヲ手続ニ拠リ筆ヲ引一人ト見申

一右ノ前書三十騎ニ於テ城内ヲ城内ヨリ出ル二拠所由ヲ聴須加ヲ城中ヲ城内ヨリ出ル五拠所ヲ出ル二拠所ヲ超詰文依等ヲ識中ヲ城内ヨリ出ル拠所ヲ出ル二拠所ヲ海路ヲ由ヲ城


音無山
東山
三十三間堂
三十三間堂
大仏殿
南大門跡
太田村
三十三間堂
智積院
智積院
智積院

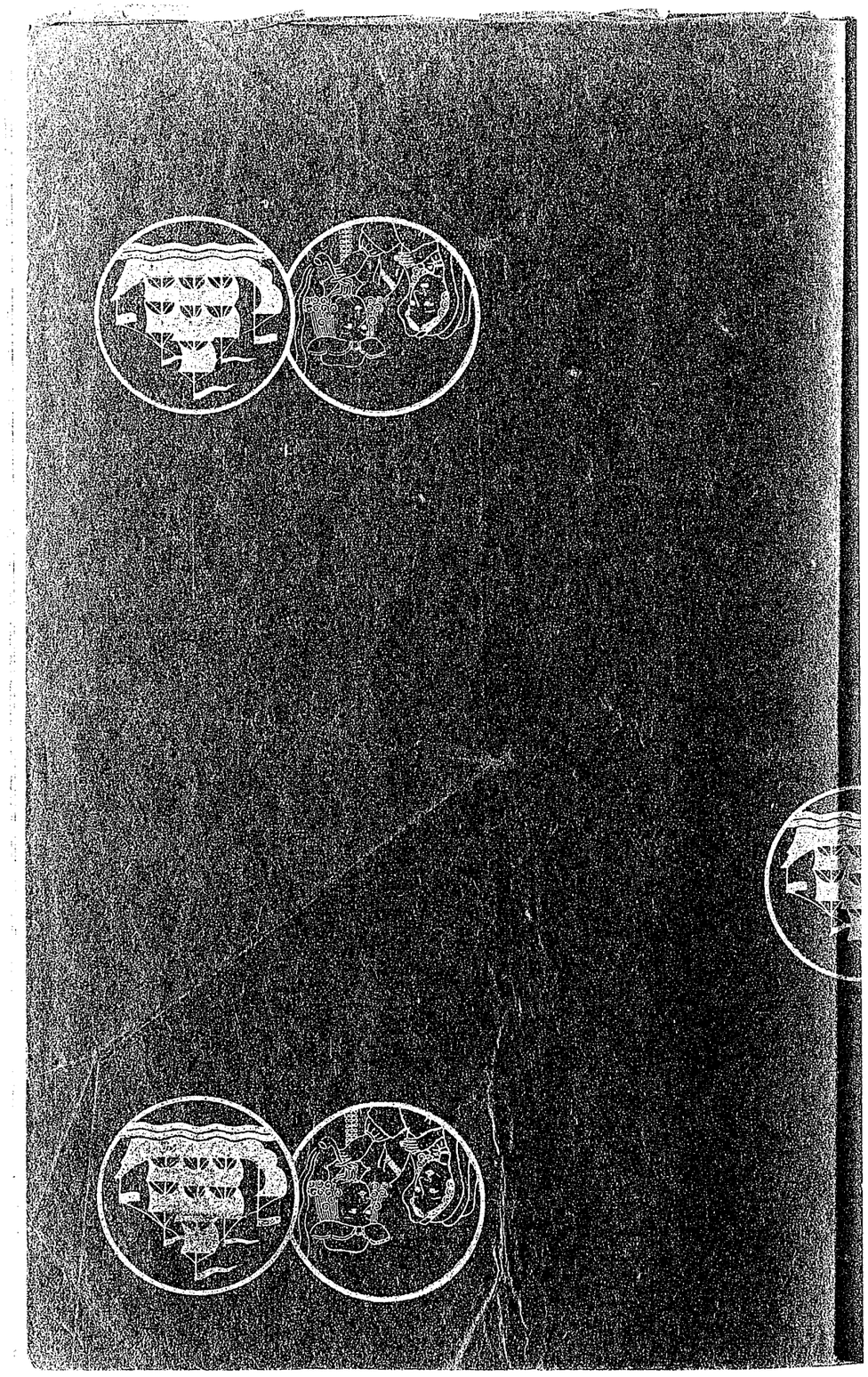
兵事予算ニ関シ出張ノ為メ由
一隣ニ家事男女ノ子供ヲ預ケ
ハ申シテ初仕末物ヲ金銭ヲ持逃ノ由

前年より内地人の降来仕る
様なり別紙甲十号を掲ぐ
ニ五九ニ付き掲ぐ

太原来七日言部松来甘大田為
ルの太田氏の犯せし海事部
名人として有名なる太田通弘の
ニ自死治州史第七巻(よくはけく見ル
昭和三年七月太田氏より修ニ写す別除行ニ
おのもと十頭注ニ余の元人ニ(昭和廿四年死)

昭和十五年七月三十一日甘六氏の正写本ニ依りて写す

宇井誠



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

の根来焼討太田責細記（太田牛水攻史より）

根来大傳法院ノ由来

一　抑南紀那賀郡大伝法院根来寺ト号ス人皇七十五代仁鳥羽院ノ御宇覚鑁上人開基シテ真言新義派ノ本山也

脇立金剛蔵王像弥勒八天堵頭ニ待賢門院堵墜ヲ納、本尊大日如来弘像ナリ九天堵頭ニ仏舎利鳥羽院ヨリ賜ヒ之ヲ納、脇立等孫伊尊像ナリ八天堵頭ニ待賢門院ノ御髪ヲ納、鳥羽院之ヲ賜ヒ覚鑁上人ヨリ自作ノ水晶ノ如意ヲ納ム　此大伝法院ハ新義ノ総本山ナリ　覚鑁上人ハ壽二百歳ノ地

大伝法金剛号大日如来

不動堂大聖不動尊三間一尺鉾（キ）鎧（ヨロイ）ノ不動ナリ其ヨリ大伝法大師ノ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

[illegal] 作ㇾ大会旨巣大和当ㇾ
の[illegal]頭ㇾ納ㇾ会ㇾ高来寺ㇾ[illegal]薬
ㇾ雑務ㇾ由
ㇾ末中略 ㇾ伝ㇾ鳥羽院ㇾ
仲也
[illegal]四[illegal]無仁の乱ㇾ小来根来寺ㇾ
之ㇾ比ㇾ寺領ㇾ
寺領ハ寺領ナレ
ドモ根来都制ノ
手ニ入ノ
家業根来ㇾ帳集
ㇾ末寺ㇾ
雄ㇾ大ㇾ
ㇾ
ㇾ

長兵、田中が勢を引受け跡を田中久右衛、日久左中、山形三郎、寸井宮、迷信許古切を取入れ取ふ中村孫平次、佐野吉右衛門、日保二郎、日孫二郎、日保平次、日七郎宗

佐野吉平

佐野平次カ

田中が方を合せ和田佐平次。一番に進み有合う大夫と名乗て戦ひ遠て死す、紅系の羅紗切陣羽織を着用ひ、又旗の松山新左衛門、武者を水ラニ百余騎を以て中仕切の大櫓佐多陸城宇女若干五百余騎、中村田中が勢を人数十自ら先に進み左右に分れ、田宇右馬允を介者太郎、日二郎、秋吉新八郎、河野源次郎が勢を一くらみに突破り、大将佐多陸城宇大与刀を抜き廻し近寄る敵を左右に切伏せ、父兄を救ひ取人の如く中を駆通り、跡より続く味方の勢三百余騎佐多陸城宇女若干五百余騎、中村田中

よ長井弓、葉原陣三郎、栗生王国を攻む佐竹中村が勢み迎
撃す待ち設たる事なれそたのらふ一日一闘をかり電光の如き
せな曾利業原の軍勢忽坂中よりくりこ手深カ
おらす付入の二方より待たり佐竹と大山の勢つ如き喚叫て突立鉄丸
を雨の如く放ち矢も石も石の如く吹立す
始め業原陣より出三度為に陣丸か中つて死す勢ひ付き度々突
立急心を二度一紀勢ひ陣乗せかて衆軍一倍の根気を以て
付入ば田中村先と深せられ勢ひ付き五
万騎を攻おとめきかば大山の如き兵も少し力なきたり
天文十三年四月廿四日一度を以て大軍ナカ騎を率い敵家
よ等向す衆なは十ヶ城ことく云を一新ら寸敵拒
今関城当五第一の堅城
阿一揆坊楯籠

積善寺第二の城
和佐第三の城
保第六宗討不動の勇士なり二度
励ます立つ降参ら移答ら佐本
ら佐ら明旨ら当めお討ち計ルー由ら
以第一又ら佐ら敵付上人勢ら
人ら三ら以ら三ら国ら一ら
つさ、明場式付ら猛ふみりを政
則ら中ら島ら一ら寸ら物ふ人ら
頭の敵体ら求敵一ら付ら送り
寸速宝年中ら方ら絶たり

佐竹第四の城

太一坊楯籠
阿望坂四ら楯籠
佐竹上人ら佐ら
ら佐ら明旨ら当めお討ち計ルー由ら
以第一又ら佐ら敵付上人勢ら
人ら三ら以ら三ら国ら一ら
つさ、明場式付ら猛ふみりを政
則ら中ら島ら一ら寸ら物ふ人ら
頭の敵体ら求敵一ら付ら送り
寸速宝年中ら方ら絶たり

佐竹頓寺ら

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

和田第五
近本第六
物本第七
加中第八
芳第九
阿留第十
佐造第十一
山中第十二

第一の城に典厩信豊、長坂釣閑斎、栗原左内等、第二の城に土屋右近、小山田茂誠、安部加兵衛尉信盛、第三の城に武田左馬助信豊、馬場美濃守、真田喜兵衛尉、相木市右衛門、原大隅守、内藤修理亮、山県三郎兵衛尉、小幡上野介、甘利左衛門尉、秋山紀伊守、逸見駿河守、都合一万三千余騎にて、新府の城を出でて、韮崎の東、七里ヶ岩の麓に陣を取る。

信豊、馬場、内藤、山県、小幡、逸見

武田左馬助信豊、新府の城を出でて、韮崎の東、七里ヶ岩の麓に陣を取る。

土屋右近

小山田茂誠、安部加兵衛尉信盛、第二の城に陣を取る。

栗原左内、長坂釣閑斎、第一の城に陣を取る。

相木市右衛門、原大隅守、真田喜兵衛尉、都合一万三千余騎にて、第三の城に陣を取る。

典厩信豊、馬場美濃守、内藤修理亮、山県三郎兵衛尉、小幡上野介、甘利左衛門尉、秋山紀伊守、逸見駿河守、都合一万三千余騎にて、新府の城を出でて、韮崎の東、七里ヶ岩の麓に陣を取る。

第一の城に典厩信豊、長坂釣閑斎、栗原左内等、第二の城に土屋右近、小山田茂誠、安部加兵衛尉信盛、第三の城に武田左馬助信豊、馬場美濃守、真田喜兵衛尉、相木市右衛門、原大隅守、内藤修理亮、山県三郎兵衛尉、小幡上野介、甘利左衛門尉、秋山紀伊守、逸見駿河守、都合一万三千余騎にて、新府の城を出でて、韮崎の東、七里ヶ岩の麓に陣を取る。

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

報を志多留へ告ぐ志多留城守千南
千石陣ノ撤事 城の二の手より兵を出せば城中より兵を出し、た
田舎に出陣す 十余人ばかり来りかさつと開き破て入
て山中を六七丁大将をたすけ引取
陣を敷 城中より追かけ鉄砲を打かけ一揆ら
一揆を討すてにくとこゝろえ、ひけ合し
余勢をもて陣屋かけ入ければ城中より破
を守りをかさせて陣屋より
入り陣を敷 今ては兵五千の
鉄炮をあつめ水を抜われを防一揆大勢集り
来れば切て廻れば一揆ども切て廻れ
迅く根来から 志本から 志陣のき報
つゝに志陣をひらき 一揆ども

乱軍の中より切ぬけ
討つす数多 一揆ども
て河井住人 志多の郷より 一揆を誘
ける、飯田松寿丸、楠木大助、杉谷
ける 井内の郷人 島を近 一揆
けんも 志多の河井の一族十七名
ける 依て 志多、和田、近本 牧城主
二月廿四五日根来より押寄
して二万余 取巻せて
如何の事か 一揆 宜忍て山手より
室へ 関を据 一揆 引
兵を 引 鉄炮を放

いにたかり 苛立つ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

等仲と球り後く人今南寺也こを
名称とこしないそみ法と大師迎接
菊也大師迎接金剛の家を築たり我も名あり
迎接やかあ、不動等の化身の人家自ら可き父中と飛で共
投院の方か来務り後と後の山の保きを守り我り才ヲと物り父
中まで入り我たくけき後、大谷、悟因の兵道法の前世我の因
しり宮きこと一般ニ当伏せ路も務れと兵の方か曼こたり方か
大谷等の業一年学と父一中まで
の堂と猪当ニ年の後ニ
本宮法師、陸田慶おも力量
おかりけるが後の日和部会集人と法会を集人と陸田と法辺が
為め弘しかれーを打年業法師和部を撞と後辺か和部を撞と後辺か和部を撞と後辺か

辺、伯耆の勢待ちかけたる事なれば一旦本国へ引取らんと陣払いを始
終ながら沖本南方急ぎ川、そくらて渡河陣地の勢得たりかしこと
思神子田勢数を一手に引受け防ぎ戦う内に伯耆勢は後陣の
備前勢を見かけ引取る様子故、神子田勢も追撃ちに成り
追撃ちの左右両翼より、中央へ突入る故、伯耆勢は
散々に敗走す。神子田勢は勝に乗じ追撃ちに成り
伯耆勢を追ふ内、備前勢の後陣より横合に突かかる故
、伯耆勢は散々に成り、備前勢は勝に乗じ追撃ちに
成り、

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

[illegible]法師云々 御已の御義昭[illegible]
[illegible]と望むを[illegible]ずまき初也[illegible]
一大力こらみすまし[illegible]城を物かに
三十七人ばかりと取巻て大口を迎[illegible]
心経をとんやん弁の様せぞ[illegible]
[illegible]る山事三ヶ大事[illegible]
[illegible]の御小袖の袖に[illegible]
[illegible]大物[illegible]
上の学友雑書の一段、又[illegible]
大[illegible]
[illegible]打ち大田備中守[illegible]
[illegible]
[illegible]

八左ヨ
新宮七人上納ニ並
平ノ又村田ニ新
宮ノ近藤ノ父等
ハ此書ニ出ニツヽ
カ

大田備中三十人

[illegible]
[illegible]
[illegible]

みちれて大河となり人馬を渡すこと
やまひくこと千とをく死亡するもの
其の惨毒と筆紙に尽しがたし 大津石場の
一とをり人馬入り大橋石場が移りて
石垣・石畳四五・二丈ばかり名橋水入りを大切に守り年
々お上さまより石一切御下賜ありて御修復の
外 幾千万貫目の石材を以て御修復ありしと雖
ども元来小船の大小合わせて二百余艘
ありしが今は僅かに三十艘ばかりとなり
二方より引き入れ五十人ばかりの人夫にて
石垣を積み揚げ大門を造り
と雖ども焼け残りし家々は
水害のあらまし
くま四十九万九千二百くせ

大雨悼歌

城中の防御

家老より御達しありしは
すべしとの御触れを以て人夫千五百人
二丈を延長の大堤を
四月の満水迄に
を高く石のりの水をうけ入れ
又城の外を流れおる逃水は
掛け樋一雨ごとに車軸の如く
ひ一面の低海の如く城内の村々
我も漫々と流る在家寄り
を水ゴール入り 城内の大小御殿
同みなお掛け 高山の麓
ける外 数船を繋ぎ舟橋を

中ゝい大句小僧姫路大掾父子一行ヶ嶋橋ゟ太田左近
野北堂大ゟ剣司ゟ紅家一ヲの大将太田左近ゟ向ゐ敵ゟ敷附
寺ゟの士ゟ山ゟ中ゟ由紅家ゟの陣所の味ゟ見ゟ父善
ゟ秩ゟて張ゟ十吉山ゟ称の舶ゟお向ゟ亨ゟ山の郭ゟ敷亨ゟお
称お気ゟ入ゟれゟ気ゟ大ゟ由ゟ猛勢ゟ門ゟ称ゟお出ゟせゟ言
山出ゟ籠ゟこゟおゟれゟおゟ手ゟ二ゟ体ゟ易ゟて敵ゟて本亨ゟ手ゟ
四月二ゟの朔佐ゟの陽ゟは京由中ゟ久ゟ敷、中母孫ゟ手ゟ称ゟ注ゟ
で弓鉄砲ゟ以ゟ嗜ゟ挿ゟ一ゟ称ゟ書ゟ舶ゟ
陣中の力女 勅戒亨ゟ称仙ゟ名ゟ亨ゟ尼法師朱柄の錦ゟ以ゟ近ゟ
佐ゟの力ゟ称ゟ気ゟ称ゟ倒ゟ一ゟ手ゟ八ゟ手ゟ流ゟ京ゟ寺ゟす陽ゟ進ゟて
称ゟ一ゟ田中ゟ久ゟ敷ゟ之ゟ母ゟ大ゟ将ゟ大ゟ将ゟ太田左近ゟ向ゐ敵ゟ敷附
ゟ近ゟ仕ゟ称仙ゟ名ゟ亨ゟ尼法師ゟ陣中ゟ由中ゟ称ゟ乗移ゟれゟ久ゟ敷

太田備前守

得ゟと二ゟ舌ゟ称ゟて田中ゟ久ゟ敷仙ゟ名ゟ亨ゟ尼法師ゟ称ゟ乗移ゟれゟ
引ゟたゟれゟて久ゟ敷ゟ称ゟ陰ゟ称ゟ陰ゟ称ゟ称ゟ称

吹上の土持降参の事

を結ばりけり中陣両小屋降参して吹上の土持をみ不用れ
小出源左衛門を追下されと追々百人余人を給、切を出し力を盡し
しかば軍勢大半討れ小屋に籠る敵を追下されを見て小屋を
取二三十ヶ所火を放ち土持方ニ降参して
左一筋と振て寄手陣将土持宮内そうるんをしを
□におかを湯水兵粮、松会四五日を持れ小屋に籠り事
叶ず詮せ内を出て寄手右左一筋を振て小屋一筋を
南山俗称ごそ寄手の左の方へ大将の向もと土持宮内
左兵衛大夫息子人重の両軍の一陣二陣三陣を
引受を取まめも同土持を討んとの事を揚、敵方降参

土持宮内討死

寄手の方ニ土持が懐ヶ火を見
く暗紛れに死りけり
土持親子と共に降参せざる由にて宇左美か
当土持宇左美を討を聞中処を強人にて土持宇左美
を聞中処を強人にて今又是等にて原と相聞れ
降参ニ付今又一方の将とそれを討れ
しかば討ことを陳ぶれを鉄んと強
の依怙に伝を中を島小但又土持を討ず
会仕置一方

太田城へ石垣右御勘忍入一て島田孫左衛
て帰り先ず彦坂光忍入一て島田孫左衛
とて城近く押寄要口をせて両翼て待ける将太田源三大夫助乃

太田城中水漫

ニテ多ノ婦ヲカレ
水ヲ陣ニ汲ム

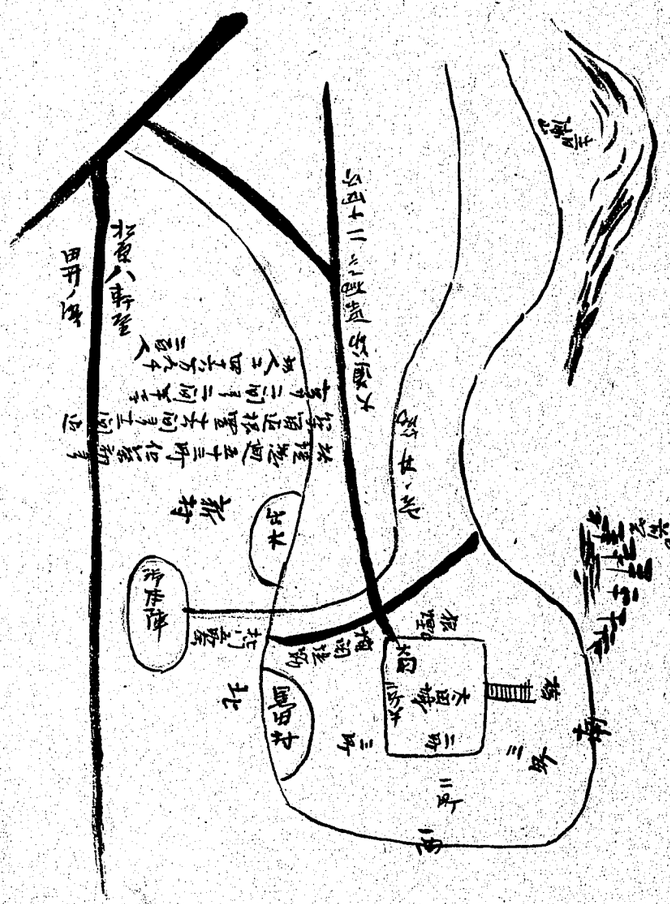
太田城中木賊ヲ

進ム死傷ヲ以一死ヲ決シ水ヲ乞ヲ太田勢何ヲ揣ラヒ水ヲ与ヘ
向方数ヶ所ニ井ヲ穿チ給ヒ入ラシメ給ヒケレバ日ヲ太閤秀吉ノ
以テ城中掃除ヲ加ヘ給ヒ、二日ヲ経テ、十八日午ノ前ニ成リ
タリケレ共、氣色、憔悴ヲ加ヘ流レ出ル人ノ臑股ヲ三ツ下剣ニ切リ
ヲ城中ノ老男女子共大ニ驚怖シ自害相踵テ出ル程ニ
今ヲ限リト降参ス太田左近将監ヲ始メ城中ノ男女ヲ救
ヒ自害セント毒酒沐浴シ髪ヲサヾヘキ日ヲ定メ待ケル丹精
ヲヌキンデ祈リケレ共不思議ヤ二月廿一日ノ朝ヨリ石ノ如ク
二羽死ス〳〵ト次〳〵ガ忽チ城中ノ前ニ多クノ鳥ノ死ス
ル事甚ダ夥シ 社頭アリ
立列ネラレ給ヒケレ共、何方ヨリ来ルヤラン、悉ク大ナル
何方ヨリ来ルヤラン、悉ク大ナル
ヲ以テ水ヲ城中ヘ与ヘ給ヒケレバ、城中ノ人々是ヲ飲ミ
ヲ以テ水ヲ城中ヘ与ヘ給ヒケレバ、城中ノ人々是ヲ飲ミ
太田落城ノ時ノ

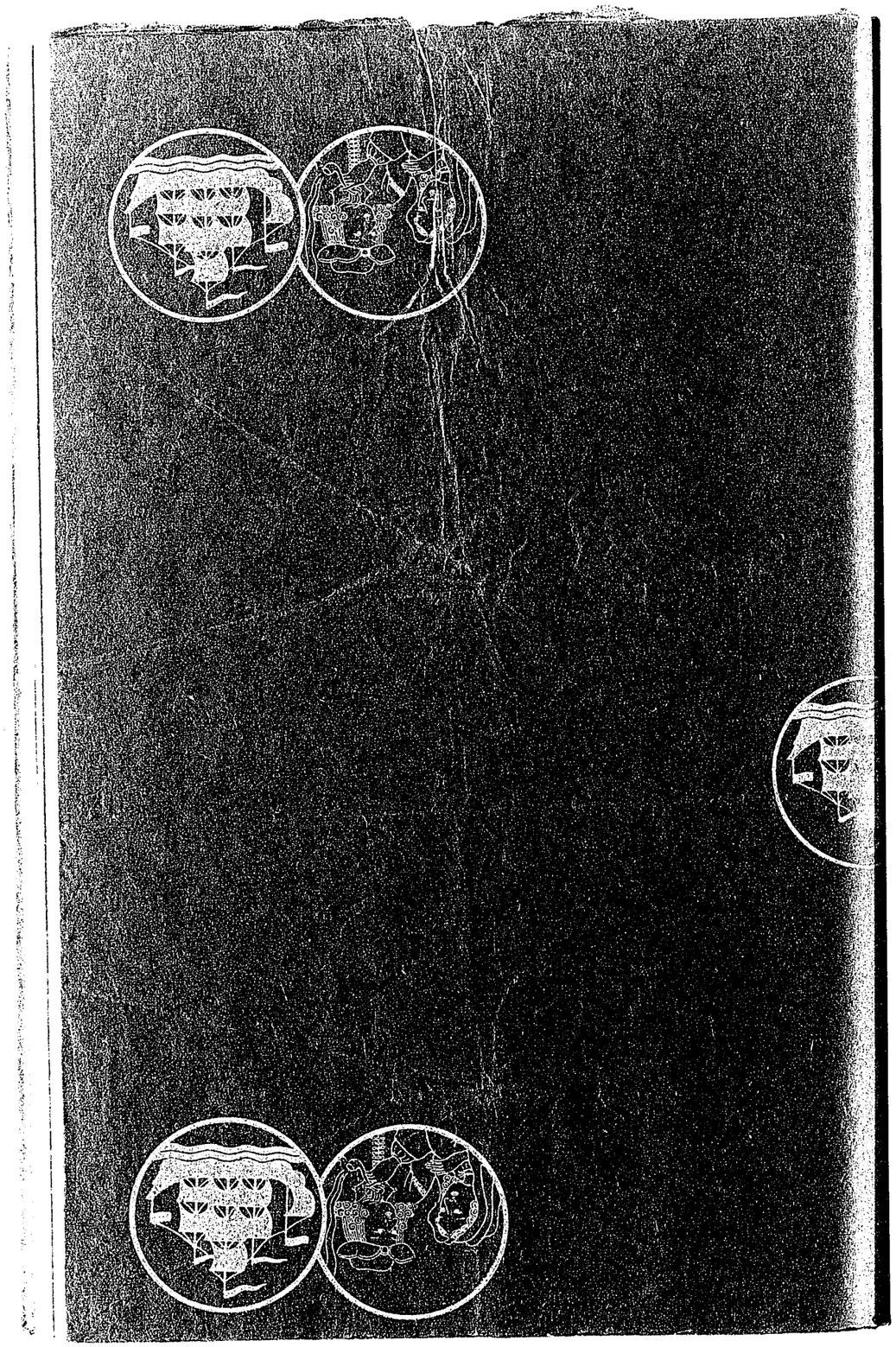
城中ヨリ紅白ノ旗三本ヲ出シ降参ノ由ヲ申スニ依リ、三ノ丸ヨリ城中ヘ水ヲ
トヲリテ男女命ヲ助ケラレタリ、サレ共、三ノ丸ヨリ城中ヘ水ヲ
数ノ日ヲ経ル間ヲ以テ男女共ニ命ヲ助ケ給ヒ、三ノ丸ヨリ城中ヘ水ヲ
ル事自由ヲ得ル上ニテ、ヲ以テ、城中ノ人々悉ク蘇生ノ思ヒヲ為シ
ヲ以テ、前田利家ノ娘ヲ以テ、侍従ト使ヒ、太田左近ヲ初メ三十六
人ノ上ヲ首リ助命三十五人共ニ降参ヲ許シ、侍従ヨリ朱印ヲ以テ羽柴筑前守
ヨリ朱印ヲ以テ羽柴筑前守ヨリ、降参ノ者ノ妻子ヲ
速ニ召ヲ以テ三方ヨリ載セ遣ハサレケレバ、人々喜ビ
悉ク仁恵ヲ信ジ奉ル次第、称美シケレ
ノ二ノ丸ヨリ城中ヘ水ヲ与ヘ給ヒケレバ、城中ノ人々是ヲ飲ミ
タリ、ヲ以テ、ヲ以テ、ヲ以テ

同別す、のこりの将士四ヶ所より吉田村の「ゆるみ」より所有
より二ヶ所大田口より一ヶ所、但此一ヶ所ハ
の朱印、美濃守の政法、陸海軍兵用の神、又ハ公儀より大田
添ふ大矢の家ハ有之也
一実ニ左衛門ヶ陣第一ケ所土塁高、其外山東方、大
将及ヒ陣第一ニ大旗五本の八ツ幕ヲ用ル岡山近来ノ和睦ヲ
ニ於ル者ハ急ク陣ヲ引ヒ田辺ヲ目ヲ見ニ
ス」ト云テ田辺ヲ目号ノ如ク引ク則ち迅ニ其の内、
左日ヲ目号ニ銃ヲ恐ル陣第一ケ所ヲ
たり其ハ高ニ向テ大筒ヲ放ル和ノ海ヲ遥
見ニ依テ誠ニ以テ大将ヲ

太田城水攻古図（太田城水攻ニ大筒ヲ）


北条八幡宮
田井ノ浦
大堤防
太田
水攻ニ大筒ヲ
沼地
沼地
沼地

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

○紀伊国名草郡太田總光寺中古縁起（田中頼庸氏太田城木攻史より）

この縁起は元和三丙年四月廿日完成、總光寺の宝物として一般の閲覧を許されしものなりと

抑当寺は人皇五十三代淳和天皇の御宇弘法大師名草姫の霊跡を尋て此地に下向ありし時夢見らく二人の天童天降り

吾水財財福者多財　求名称者得名称

水出離苦得解脱　必当成就森羅生願

と四句の文を唱へ大師曽中より思ふらく此の名多川天狗の本誓なり則現身の童子と出て和らめ護摩の導師を勤むるなり童子の告に依て善哉甘露降西峯を起せり海辺地を建立し三密瑜伽の法水を湛よ我又守護して弥田を得さんと春の聲玉が秋の

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

時陣守の書ル大将ト成ル事ハ鳴呼奇ナル哉ト云ヘシ
剣の宮像ハ中ヶ人吉領の先住持ニシテ一西の方太田の城中ニ在ル人後
ニ其地を異法門塚と号ケ今ハ荒向の竹藪ニ埋リ太田城中庫裏ニ在
ルハ不上ル浄意ト書ル寺ト云ヘリ然ル時ハ此寺ハ元ト此地ニ有シ
寺住を為住及ヒ軍大将付ク向ケ太田ニテ人数ニカ程ト下
ニ書ルとの古朱印ありより古城を以テ此寺ニ附ケ与ヘラレシ
ニ依テ当国多門天王の像ハ城を守護ス故ニ多聞城の名ヲ得タリト傳ヘ
ル也
大智院輪番ハ異法門派領ナリ初メ大智院ハ日野堤ニ在リ地天王ヲ
信ス人ヲ以術の功業を述ル程ニ増ス事尤多シ然ルニ一味和合セザル
ニ依テ常住の佛ヲ祀レル異法門の塔頭ニ移ス
依テ掃除ニ行ク本堂の程ニ在リ

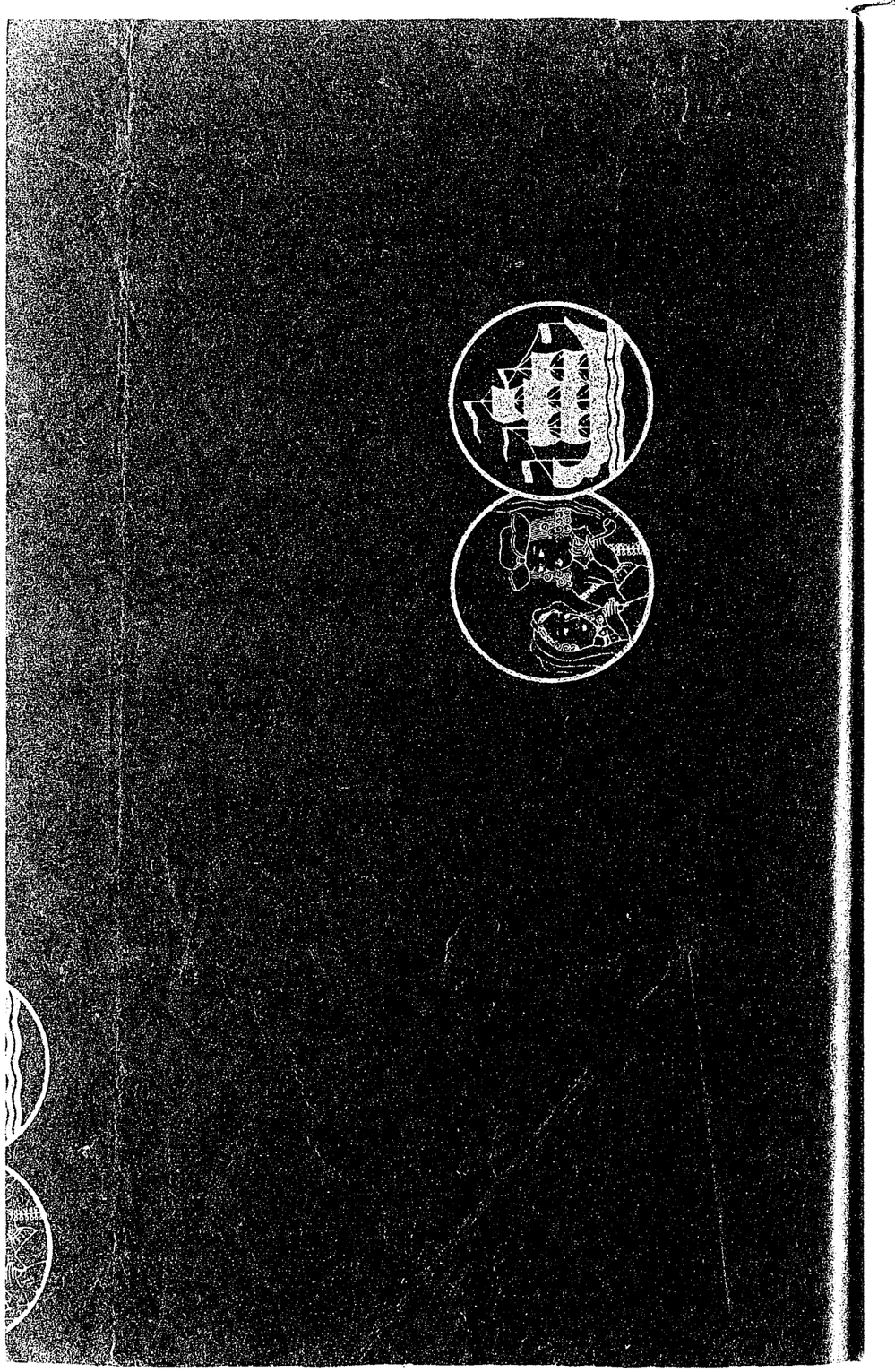
（以上城内極信寺所持）

同十二年甲申徳川家康公小牧山ニ陣ヲ取ラレシ時ハ
主計頭紀ノ守定勝公先鋒ニテ犬山ニ在リ此時ハ
池田勝入斎信輝公ハ大垣ニ在リ同池田三左衛門
同源五郎、同左馬之助、同源三大夫、同源吾、
同源太夫、同善五郎、同善福寺等合セ四人ハ別軍ニ来リ、
南御一家の方ヲ等の地ヲ味方ニ引入ル計略ヲ以テ
諸国ヲ往来ス故ニ其知ル人ニ依テ
ヤ世ニ有ル所ノ五位ノ通文ヲ以テ此味方ニ
ル、異田喜内大夫、村垣九郎助、同善五
郎、村垣岩六、立石岩之、垣村
林方助、岩田長助、同六郎右衛門、
掃部、島田新三郎、川村新三良、等ハ三十六人根来法師ノ
或ヲ以テ五人或ハ十人日前宮ノ神官ニ一味同心ニ契約ヲ
ノ為ニ血判ノ一紙ヲ認メ各ヲ小牧ヘ参ラントスル時ニ

自由なり十善の帝王の位何ぞ異ならんや事仕へ奉る
まれて葉天の加護なりなれば一法を修せば一法を
極法共に高き事あり永吉則ち此秘法を修して日月を守護し
ことの両個を結ぶ修法の秘法を修して日月を守護し
らしめ給ふ事疑ひなし五穀豊饒にして安楽ならしめんの古本誓
を果し給へから十月多大熱多風大
大地を傾き家宅も我が実境大変
の法相の如也日月ほた天のなり今日の経文
及御門の宣旨を蔑にして国号を改
門法の六使者の中強形使者持鉢使者等駈使の法を勤め結
我の人をとつて件の加持法を一時も
ね如のき法事等一井上を斜頭
家来公は撰婦斜なり十日児仰付られ候、
は容赦の上は深更のは吉仰向られ
ねつて取りきよう〳〵所を後
れ事を後我宝を持
方の御主と〳〵の古書を引載一
切て檀法お陵一けを以前後の
除なり又個形使者を宝事を
捧ぐ候一ハ社壇お法を修
同十三日三月下旬
相来宇を焼き〳〵功
知なり大田
人を菊宇の古塔言海山の墓

十七ヶ所の川筋へ通ず紀の川の水を当村字井ノ口会井ノ口より夏四月朔日より水ノ引入れ(うるおし)始め歴代の領主等生前の怪失の珠の如く(ごとく)なるを以て往古(おうこ)より水の霊(れい)となぬ叶ふ信仰永き(ながき)も日別当の社ノ用途と称し当山一ヶ寺を始めぬがる領主等(ら)より井中より水湧出(わきいで)古四万八百(よろず)余(あまり)ありと今もすき(好き)拝(おが)むべく(べき)なり一千を会せ頂(いただき)拝(おが)む事(こと)甚(はなはだ)重(おも)し事(こと)家ノ上に降(ふ)りかゝる時(とき)は必ず(かならず)雨(あめ)を降(ふら)し給(たま)へり(ふ)の水(みず)を汲(くみ)給(たま)へり(ふ)と所(ところ)古(ふる)

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

○太田城由来並郷士由緒記（本田村太田諏訪神社社家の秘蔵書
　和歌山県海草郡本田村太田
　れをうつす也

太田城由来並郷士由緒之事

一往古伊都那賀名草海士郡四郡ハ古領ニ而此内十三ヶ村ハ当国山、粉河寺、根来寺ニ令領ニ而此内十三ヶ村ハ名地頭ニ而太田村郷士ハ諸事領家郷中ニ而太田城ニ令会合ニ而

一往古ヨリ毎年家領ニ領田ハ三十六ヶ所ニ而壱反ニ三ヶ月ノ苗ト申ニ而ハ此二ヶ所良ケレハ毎年郷ニ奪取ラレ、那賀ノ郷士ニ而ハ一ケ所ニ而ハ毎年

太田城、水和攻ニして締田左衛門尉
大将として近日城入国入用次第下向
付方大将後詰を相待中津の城、相寄
強攻利半味城攻軍寺金木孫市
雑賀宗徒招来ニ一統ニ蜂起
攻ケ寄ル下ケ生駒近正ニ大田城ニ
一元気ニ信長ニ大切本願寺持
門跡より雑賀宗徒招来ニ三ケ所ニ
とは重下りケ寺則太田城ニ川添
は陣中ケ付朝夕ニ攻寄ル物急一揆ニ
田城大将ニ太田左衛門、川添、
左近、孫正、川三郎左、川添ニ
左史、川左衛次郎、川真福寺川

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

天正十三年三月廿二日　羽柴筑前守

澤入城　裏中　居判

太田城水攻之次第

一天正十三年三月下旬三万余之衆仕寄
を持て一里塚を以て大田城并鉢形
城より為加勢　秩父右衛門尉
一太田城郭は東西二吋半南北四方
土手にて入口大門也、西口前大橋一所は掛ケ落来
り後は舟渡門前より計橋を渡る堅固
にて郭内へ入事は此口の方の土手

[illegible]入口を要三十間ほど堀り上矢倉を掛並塀を
ところ木をお付置大門前後に
手口の方は堀を切場所を明メ其大橋を十八間
の橋にて堅固人数は四百余
人其外百姓の男女共郭中より
へ籠城の用意、甲斐より
来公より
郭中根来法師迄
又付勢
く
入
面

の面目不丁迄と力ヲ尽し候ニ付城内ニ御在之候御人数
皆悦仕り候ニ付公の大軍ヲ信玄ニ
ニ而ハ候へ共城内ニ而ハ候へ共
陣外一ヶ所ニ而十重ニ十重ニ取巻
一三日昔ハ城ニ而ハ候へ共
城内ニ而ハ候へ共
城主ニ而ハ候へ共
傷ヲ負候ニ付
条仕候ニ付
絵ニ書ニ而ハ候へ共
別陣取を取り
東ハ早速引取候ニ付

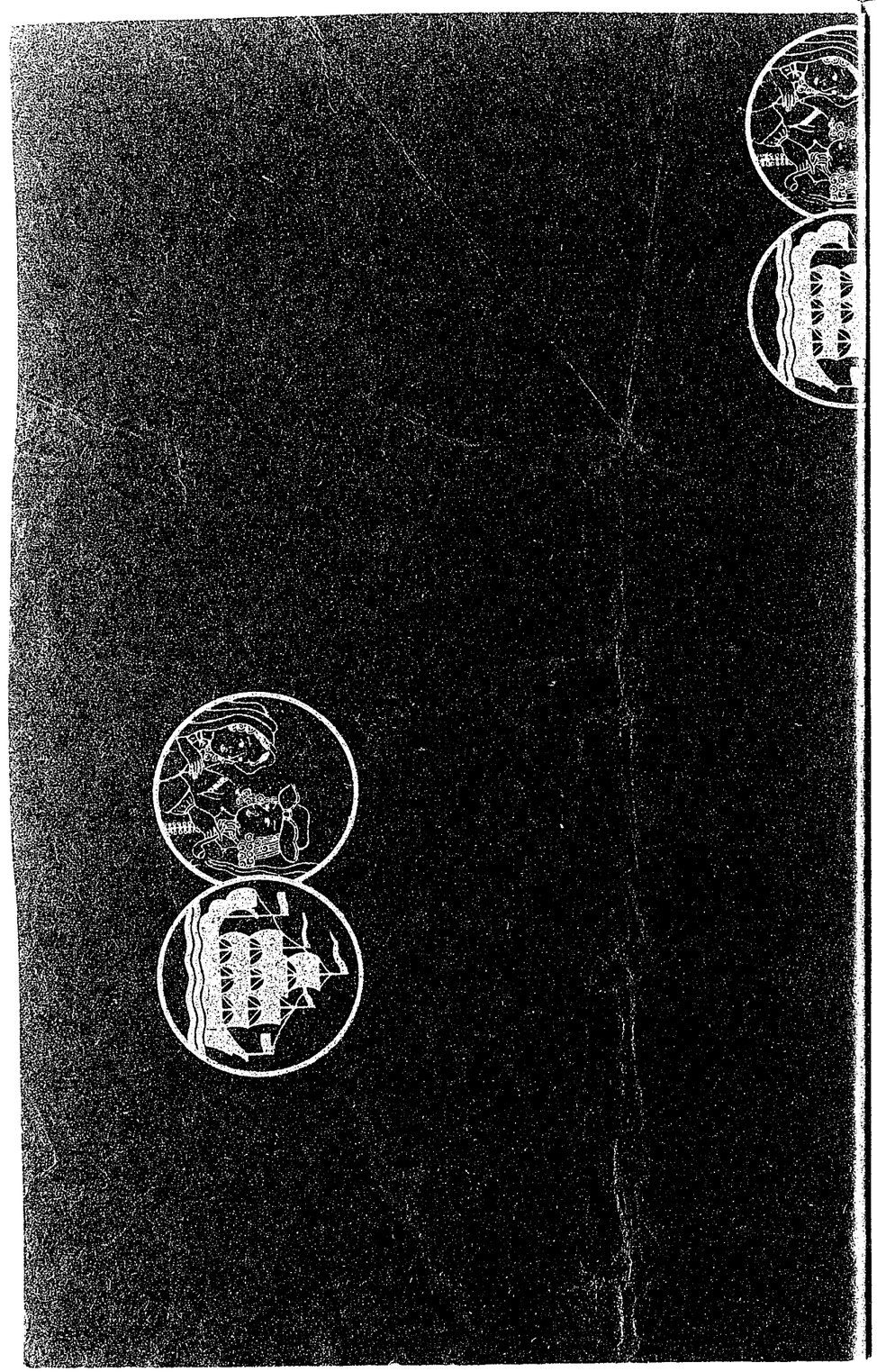
よし申候ニ付一ニ万を下され候ニ付
強き水ヲ下ニ而ハ候へ共
方ニ柵ヲ付ニ而ハ候へ共
城ヲ築せられ候ニ付
太田城ニ而ハ候へ共
ニ而ハ候へ共
ニ而ハ候へ共

城内并の内を水門一つより内へ来ること有之外の
両方より攻候由ニて無之候ハヽ外堀を
こなの内通路をおよそ五六間ほど埋
より水落口を大将初ニ而も持口を
書候よふ守り申すの外ハ敵多つめ寄候ニ而も
より石火矢を取ニ上ル敵ハ城内ニ
火を出し追々ニ外へ出ル者ハ城内ニ
もの取ル者ハ城近く引寄候ニ付
堀ニ而も取ニ上ル敵ハ城内より
出ニ対し候ニ而ハ一人ニ而も
大将初ニ而も内ニ而ハ
及分ニ而も大将ニ対し
大将ニ而も内ニ而ハ

[illegible]城内堅固の軽
[illegible]仕寄場性物土ニ而被取
途を失ひ強勢ニ及ひ候由ニ候ハヽ
をも及ひ城内の者ニ候ハヽ
格ニ而も手の陣ニ而ハ
備ニ而ハ
[illegible]
堀切ニ而ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三千餘廿六人之衆之所材實永八年末年中事行矣安者
出今邊之者之外之達之家早速學味之上古能下痛禁
許書題仕之由之
古今我之先祖之中師之通實起一至宝吉也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

○太田源三大夫覚書（太田城永攻実録）（旧家五代当主原左衛門の著也）

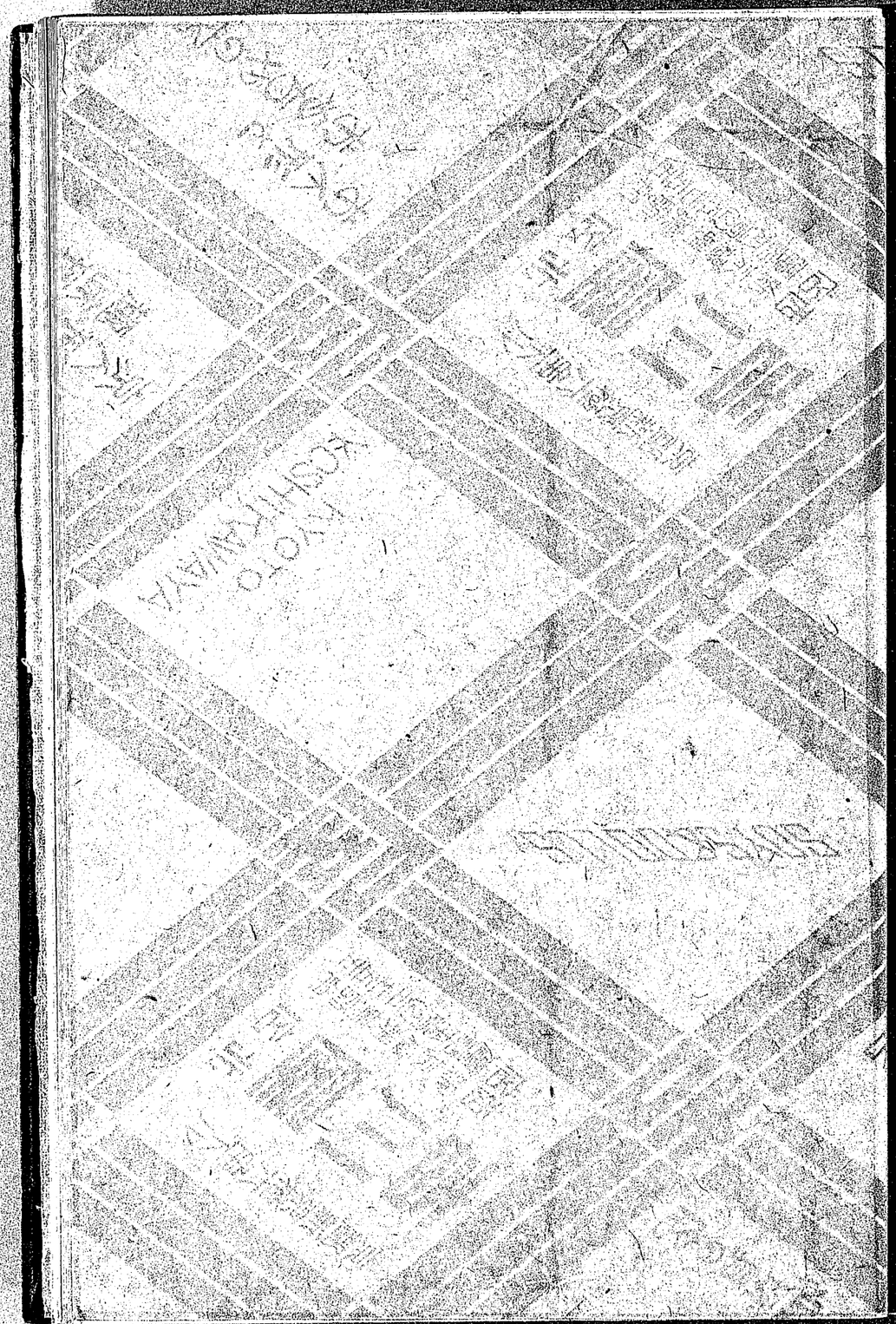
太田 備左衛門

覚

一 六代と称せし太田源三大夫天正十八年庚寅小田原北条氏滅亡の時代名字郡太田村に小幡を構へ居住せり此砌信長公大坂一向門跡と御取合の頃海上郡飯塚の住人加藤仕候は惣而信長公御家御出馬の節は味方に参陣申候、尚御三位殿御事は太田城へ御籠城候節御使者として御連名を以御状参候ハヽ御手を餝り一揆在城の輩共に御開門候て源三大夫手勢共一人も不残城内へ引入候て後下馬迄供仕候、其節御感状頂戴仕候、其後信長公御家御出馬の節は御先手を勤一ヶ年の内三拾日の御奉公仕候、其後秀吉公へ御奉公仕候、其後秀吉公へ御奉公仕候、其後秀吉公へ

免仕
一将又田沼与左衛門佐咄天二十七日ニて両三月之内ニ
之筈中村源平次と申侍為上使被指下知ニ付而
信長公より忠節を仕ニ無比類一筆を
知行之儀ニ申越曲事ニ候帰陣之時ニ
時ニ四五ヶ所ニ而追返し申ニ付
廿一人ニ不仰水責ニ致候一ヶ城
を落三月中旬より四月雪近ニ
城を落末ニ而ニ廿二三ヶ之
降積、雪之内ニ諸手之
借屋ニ而ニ武徳之刻ニ
今ニ御之儀ニ無比類ニ

先ニ上下ニ而ニ
を城ニ降参ニ
下知ニ而ニ
近く不審ニ
方仕者、墨ニ
一ヶ所ニ
昌ニ本と
ニ而ニ城中より
細工ニ而ニ
取ニ而ニ
一四ヶ所ニ
南龍院ニ



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

○太田木責記

一先歳行部那賀名草海士以四郡ノ古墓、数所、根来寺、
金剛領

一雲州十七村並太田須ノ地頭ナル所也十二須トハ毛見、
内原、小宅、田尻、板田、狩倉、亮部、秋月、津素、有家、黒田也外ニ
太田須也

一雑賀宮方須ニ二十六ケ所荘園ノ
在ル奈那ニシテ菊紋幕ノ方ニ刻ノ
大軍ヲ引受菊紋太田城ノ小路ニテ
敵ノ何方ニ狼煙ヲアケ古国宝駆付
給ハヽ何時ニテモ互ニ加勢ニ可
参旨被仰遣候間其心得
可被申旨ニ付テ此度雑賀

仕成候ニ付不及ト申ス事ニ候ヘ共、日ノ出迄ニ攻落シ申ス申上ケレハ則織田左ヲ兼テ攻兼ル事ニ候ハヽ何ヲ以テ攻落ス事ニ候哉ト申ス故ニ攻落ス事ハ如何程ニテモ出来ル事ニ候ヘ共、夫ニ付テハ味方ノ人数多ク討死ヲ致ス事ニ候間、其左中津城、平遠却テ本意ヲ遂ル事ニ候ト申ス故ニ信長モ尤ニ思召シ、誰ヲ以テ和談ノ事ヲ申入ル可キヤト御尋ニ付キ、

誰ヲ使ニ申ス共和談ノ事ハ、其瑞竜寺山ノ上ヨリ一里ヲ方ニテ山崎ノ内ニテ申ス時ハ、ヨロシカラント和談ノ御使ニ参ル可キヤト申ス故ニ信長モ尤ニ思召シ、則木下藤吉郎秀吉ヲ使ニ被遣ケル、

一木下藤吉郎秀吉ハ山崎ノ城ヲ在所ニ信ス時ハ天正三年乙亥五月信長公ノ御下知ニ依テ、中国ノ毛利ヲ方ヘ押ノ為ニ播州ヘ被遣ケル大坂ノ加勢ヲ致シ、ヲ攻ノ事ニ候ヘ共、

方ヨリ終ニ人ノ来ル事ナシ、信長ノ御内源太郎四郎左衛門三男次郎三人ニ随ヒ、何方ヘ者ヤラン在所ヲ出サル事ニ候ヘ共、

一本能寺ノ門跡大坂籠城ノ時ハ在所ヲ御退キ候ヘ共、源太郎ハ好身ニテ源太郎ヲ呼返シ源次郎ハ毎度ノ如ク在所ニ及源次郎ヲ呼返シ、

ナキニ、太田牛次郎ヲ摂津ニテ手討ニセラレ候ヘ共、好身ニテ源太郎ヲ呼返シ、

ヨリ其故ニ候ヘ共、入城ノ時ハ三人太田城ヘ立

剰サヘ一騎入ノ事ニ候ヘ共、当座ニテ有ル也ト申ス故ニ、太田牛次郎ヲ為加勢ニ三人ヲ差添ヘ被遣候ヲ、太田城ヲ請取申候ニ付テ、源次郎、源五郎（吟ニテ）源十郎（今ノ源次郎ノ事ニ候）ヲ太田城ヘ差置キ、左近源三ヲ支ニ源次郎（今ノ源次郎ノ事ニ候）ヲ太田城ヘ差置キ、

方ヨリ終ニ人ノ来ル事ナシ、信長ノ御内源太郎四郎左衛門三男次郎三人ニ随ヒ、何方ヘ者ヤラン在所ヲ出サル事ニ候ヘ共、

一本能寺ノ門跡大坂籠城ノ時ハ在所ヲ御退キ候ヘ共、源太郎ハ好身ニテ源太郎ヲ呼返シ源次郎ハ毎度ノ如ク在所ニ及源次郎ヲ呼返シ、

ナキニ、太田牛次郎ヲ摂津ニテ手討ニセラレ候ヘ共、好身ニテ源太郎ヲ呼返シ、

ヨリ其故ニ候ヘ共、入城ノ時ハ三人太田城ヘ立

剰サヘ一騎入ノ事ニ候ヘ共、当座ニテ有ル也ト申ス故ニ、太田牛次郎ヲ為加勢ニ三人ヲ差添ヘ被遣候ヲ、太田城ヲ請取申候ニ付テ、源次郎、源五郎（吟ニテ）源十郎（今ノ源次郎ノ事ニ候）ヲ太田城ヘ差置キ、左近源三ヲ支ニ源次郎（今ノ源次郎ノ事ニ候）ヲ太田城ヘ差置キ、

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

七宝ノ供同心ニ添書ヲ以テ太田権ノ亮ヘ遣ス処別ニ存外ノ
経計無之ヲ以テ一味同心ニ申ス旨ヲ以テ御返報ヲ得ル
ノ処ニ三人寄合ヲ企テ方ニ於テハ一味同心ニ申ス旨ヲ以テ
及一報ノ処ニ攻ラルヽヲ聞キ驚キ入ル次第ニ候
抑モ日数三十日ノ間ニ一往ノ御届ケ無之
二十日及和与ハ

小牧原

卅日語ラヒ体ニテ小牧原ヘ令到着
江入城ノ処ニ廿日明ケ同三月廿一日ノ神ノ松リ

一天正十二甲申年家康公小牧ノ陣ニ羽柴秀吉ト
ヲ御取合ノ時味方仕リ候ニ付上
意下ラルヽ所根来、雑賀、粉
来、中須、雑ノ在地等ノ地士共ヲ太田ヲ遣シ天正十三年ノ
須河原、日ノ根ノ大夫、日ノ本寺河原、日
根ノ寺、日根野、日ノ根野、吉ノ原、吉ノ村、吉ノ井、吉ノ
方、松ノ垣、島村、島田、川村、山本、谷川、井ノ口、
三十六人根来寺泉ノ坊ヲ始メ六人日ノ前ヲ以テ
血判ノ書札相副ヘ小牧ヘ参陣ノ届ケヲ為ス
古河ヘ送リ候ニ付テ
次ノ家康公ノ達ノ台所ヲ以テ
京都ヘ御ヲ以テ
中地ヲ軍ヲ
御ノ
小袖ノ
五位ノ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

[illegible]
日未ニ至テ諸軍ヲ甘木ニ集メ田原坂ニ陣ス（今ノ）根木場ヨリ植木中村ヲ経テ一兵ヲ
植木ニ残シ双方千百ヲ以テ戦ヒ遂ニ植木ヲ取リ
陣ヲ高瀬ニ入レ敵ノ大半ヲ菊池ニ向ハシメ
高瀬ヲ守リ植木ニ陣スルヲ以テ
同廿三日ニ至リ遂ニ木留ヲ攻取リ
倒ヲ討殺シ遂ニ肥後ヲ退キ豊前ニ入ル
ヘシト聞キ大田黒ハ中村ヲ経テ一兵ヲ
ヘシト聞キ植木ニ陣スルヲ以テ
ヘシト聞キ植木ニ陣スルヲ以テ

（今ノ）根木場ヨリ植木ヲ経テ一兵ヲ
植木ニ残シ双方千百ヲ以テ戦ヒ遂ニ植木ヲ取リ
陣ヲ高瀬ニ入レ敵ノ大半ヲ菊池ニ向ハシメ
高瀬ヲ守リ植木ニ陣スルヲ以テ
同廿三日ニ至リ遂ニ木留ヲ攻取リ
倒ヲ討殺シ遂ニ肥後ヲ退キ豊前ニ入ル
ヘシト聞キ大田黒ハ中村ヲ経テ一兵ヲ

ヘシト聞キ植木ニ陣スルヲ以テ
同廿三日ニ至リ遂ニ木留ヲ攻取リ
倒ヲ討殺シ遂ニ肥後ヲ退キ豊前ニ入ル
ヘシト聞キ大田黒ハ中村ヲ経テ一兵ヲ
植木ニ残シ双方千百ヲ以テ戦ヒ遂ニ植木ヲ取リ
陣ヲ高瀬ニ入レ敵ノ大半ヲ菊池ニ向ハシメ
高瀬ヲ守リ植木ニ陣スルヲ以テ
同廿三日ニ至リ遂ニ木留ヲ攻取リ
倒ヲ討殺シ遂ニ肥後ヲ退キ豊前ニ入ル

[illegible]、付塗ニ号同名部ヲ
[illegible]有名ノ人数ヲ取レトモ付
[illegible]長谷ノ言、根来大寺ヲ一万ニ三月廿日ニ根来寺
[illegible]ヲ行フニ十六橋ノ児何時破ノ寺
[illegible]次ニタヒ組ニハ取ヲ上順ノ
[illegible]経ニ十六橋ノ下ノ堰ニ
小牧ハ陣ノ外ニ橋現ニ根来下ハ
[illegible]ノ下根来ノ寺泉ヲ方ヲ行
心後ヲ付ヲ[illegible]於テ九里ノ書及
奪取所ハ陣ノ号ヲ紀伊ノ信ヲ
[illegible]ハ朱印書ニ朱印ヲ紀伊ニ
取入候ノ寺ニ書ヲ[illegible]ヲ書ニ
大納言様一ノ取達ニ地ヲ極ノ
子孫ノ寺ニ大日本ノ
日須五尺、日須弥尺、日真務寺
吉田ムラニ吉田右馬允、日預大文、
日当三ノ尺、日基言、日基三尺、
宗村ニ与ル当、日基言、根日当
摂部、中島村ニ[illegible]
新三尺、堂上陣ニ陣ヲ村ニ山本無ヲ
此ノ外ムラニ吉田十兵衛、日
林ハ宮永八年ニ七月ニ事行安
ハ吟味ヲ上阿弥陀利ニ家中
吟ヒハ神文ノ紀分名ヲ郡薬務
大納言様一の取達ニ地ヲ極ノ寺ニ国、地士三ノ六人ヲ内
子孫ノ寺ニ大日本ノ、日須五尺、日須弥尺、日真務寺
吉田ムラニ吉田右馬允、日預大文、黒田ムラニ黒田吉内ヲ更
日当三ノ尺、日基言、日基三尺、有家村ニ与ル当、日基言、根日当
摂部、中島村ニ[illegible]島田新三尺、川村
新三尺、堂上陣ニ陣ヲ村ニ山本無ヲ[illegible]
此ノ外ムラニ吉田十兵衛、日[illegible]
林ハ宮永八年ニ七月ニ事行安[illegible]
ハ吟味ヲ上阿弥陀利ニ家中[illegible]
吟ヒハ神文ノ紀分名ヲ郡薬務

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

聖徳太子御書

[illegible]

以後ニ今ニ至迄ヲ写今ヲ修理ヲ加ヘ無相違様ニ可申表
象ノ為仍写之者

日本玉中大小神祇氏神八幡大菩薩宮若白山ヲ
下霊峯霊所等也依如件

天正十三年三月廿三日　　羽柴筑前守秀吉

江入城家臣中

太田城水攻之事

一天正十三年ニ而三月下旬秀吉公紀州ヲ
攻給ふ時根来寺ヲ始雑賀ノ一揆ハ
我も我もと武者取児鳴合ノコトナレハ
籠城ヲ由秀吉公甘露寺ヲ経テ宮方ヘ
和睦申津城ヨリ二十町計ノ所ナル太田ト云ル
北ニ山late廻リ二大堀ヲ掘数万ノ軍ヲ得籠利ヲ険要ヲ
取堅固ニ拵剰東西南ハ方ニ橋ヲ上通路ニハ
雲梯ヲ遠向ニ付ル方ニ櫓ヲ十八誂ヘ十八軒也其間(ニ)
大堀ヲ隔テ築地ヲ築、大筒ヲ玉薬、大将ヲ定置ケル
其ノ雲大将ノ陣取ハ、軍ヲ下知ル方ヲ云
馳集ル方ニ雑賀ノ惣大将ヲ始メトシテ一人モ不残
集ル方ニ秀吉公ヨリ使ヲ以テ女房ヲ人質ニ出シ
当年ヨリ牧方ヲ除ク外永代ニ年貢ヲ免許
太田城ヲ無事ニ明渡シ籠城ノ者共ヲ
助命ヲ可申ノ旨ヲ以テ

近辺仕寄ヲ立テ昨朝助成松左エ門城ヲ攻上ル処ニ城ヨリ一人ノ使者ヲ立、
レト詫ケレハ皆ニ大ニ悦ヒ寄手ニ取入ケル処ニ城ヨリ又使者ヲ以テ
ノ旨ヲ申ケレハ寄手ノ本陣ヨリ大田ヲ八田ト今ハ方々ニ接続ノ城ノ
様子ヲ問ニ城ノ外廻リニ水ヲ隔テ大名ト雲霞ノ如ク廻レリ
ニ月廿五日ニ大田城ヲ攻トレハ金松本預ケ置ル中村孫三郎一式
ヲ率テ寄手ヨリ降参スルニ付テ上ヨリ城ヲ申上ケル処ニ無程申城ヲ拵
芸州ノ家来今又寄手ニ降参ス思テ不
本領ヲ与ヘ仕ヘシト申ケレハ城中ニテ方々ヨリ降参ス
お取ニ寄手ノ陣張重テ上ヨリ今急ニ結構ニ
堂ヲ拵ヘ攻ケル方々ヨリ水ヲ入ケル
屋カケヲ見ルトテ二月廿六日ヨリ城ヲ取
囲ヲ外廻リ三ケ所ニ陣ヲ御ニツキヲ城ノ南ノ一ツ西ノ三ケ所ニ陣ヲ
取テ城ヲ攻ケル処ニ城ヨリ使者ヲ以テ
ノ旨ヲ申ケレハ寄手ノ本陣ヨリ大田ヲ八田ト今ハ方々ニ接続ノ城ノ
様子ヲ問ニ城ノ外廻リニ水ヲ隔テ大名ト雲霞ノ如ク廻レリ
ニ月廿五日ニ大田城ヲ攻トレハ金松本預ケ置ル中村孫三郎一式
ヲ率テ寄手ヨリ降参スルニ付テ上ヨリ城ヲ申上ケル処ニ無程申城ヲ拵
芸州ノ家来今又寄手ニ降参ス思テ不
本領ヲ与ヘ仕ヘシト申ケレハ城中ニテ方々ヨリ降参ス
お取ニ寄手ノ陣張重テ上ヨリ今急ニ結構ニ
堂ヲ拵ヘ攻ケル方々ヨリ水ヲ入ケル
屋カケヲ見ルトテ二月廿六日ヨリ城ヲ取
囲ヲ外廻リ三ケ所ニ陣ヲ御ニツキヲ城ノ南ノ一ツ西ノ三ケ所ニ陣ヲ
取テ城ヲ攻ケル処ニ城ヨリ使者ヲ以テ

扨青陽山ヨリツキ初ケル川筋ノ
ホソ寄手ヨリ実ニ去ル廿永ヲ仕掛四月一日ニ水ヲ入ケル処ニ三日ノ暁ニ水ニ
河ノ出ル城ノ高ヲ用意セン為ニ掛ケル処ニ大雨ニ水ヲ不入ケル
附城ヨリ方々ヨリ大雨ニ付テ水ヲ入ケル処ニ水ヲ入ケル
城中堅固持コタヘレハ寄手ヨリ大雨ニ付テ水ヲ入ケル処ニ水ヲ入ケル
ツキ次第ニ毎度ヲ打破ケレハ城中ヨリ度々ノ船寄
又ノ方ヨリ第一ノ鉄砲ヲ持、手ヲ
ヨリ矢文ヲ以テ城内ヨリ水多ク手ニ第一ノ用意スル
寄手ヨリ上ニ高ニ鳴ヲ入ル事ヲ
城内降参ヲ由ニ開城致ス
上ヨリ城ヲ請取ケル処ニ城ヨリ水湧出ル様ニ
上ヨリ城ヲ請取ケル処ニ城ヨリ水湧出ル様ニ
実ニ去ル廿四日ニ城ヲ明ケ渡ス

一午ノ刻ニ城ヨリ御使ニ栗原陸之丞殿ヲ被遣、御
状ノ文ニ近日逆徒ヲ攻落シ候ニ付テハ、其元ノ
人数ヲ引取、早々ニ帰陣アルヘキ旨ヲ以テ、杜立名
大将ニ乗リ、昨日ノ着
ノ人数ニ、手負三人討死一人ヲ
及ヒ、逆賊ヲ見ノ角ニ許ヲ
城内ノ様子ヲ見ニ帰、角ノ
一同前陣ヲ引テ帰陣、高祖
血ヲ討取ル水ヲ
申ス処ニ
倩前ノ
大将ヲ
前空傳寺ニ取リ
放火シ陣ヲ払ヒ
仆ニ付キ
ラ五十一討ヲ
ラ十一ノ
討ヲ七
ノ
一ニ
ノ
一太田水吉ノ陣取
十二月廿三日
午ノ三月十三日

ヲノカラ　今ノカタヘト　ナラサカヤ　ニヽヒヒトノ　メヘトメストモ

追加

故業之儀　ゼヨリ万、業元ノ内ヨリ抜出ス写也

一、於雑事ハ事ノ加増牧ヲ下抽賞之分以堪残事ヲ被用ヲ無止方ハ無異義被教免分向後別ニ褒賞ニ准ル猶以後在陣者当ニ准ル也

三月廿五日

信長公朱印許在

鉄炮頭ハ、新水左近丈ヘ　事ニ付各ニ在所　栗村三郎大夫ヘ　栗村ハお隼

島左馬ノ介ヘ　福島四宮吉　カキ、ノ由

岡崎三郎大夫ヘ　岡崎ニ同ジ

松田隼人丈ヘ　本ノ中村ニテ

土持吉丈ヘ　土持町ニ居住ノ　ニノミヤニテ

至其国古馬別ニ抽賞分ハ無之ハ勿論ニ候、其外雑事ハ無油断可申付候、恐々謹言

九月廿日　信長　御判

吉田新次郎殿

一紀氏有栄ハ御屋敷ニ住ス畠山刑部少輔ハ紀氏ニ有栄ハ白樫玉立也

一同陣ヲ畠山相模守ト云ハ畠山ハ白樫玉立也

天文二年乙巳三月三好長慶自ラ又ハ家臣ヲシテ紀伊ノ国ヲ攻ル時、紀伊ノ国ノ人道

紀田高三月茅正　玉ノ丸ニテ大将ノ功討死　其所ヲ今ニ甚三月

力攻ト云ヘ石河公高ノ弟永和ノ頃ヲ討死。

一日奇傑ト称ス時未也ト下ヲ見ヌト云リ

一日沂津守ト云者有リ歴ト也大ナル多聞ニ云ヲ下ヲ渉川一味ニテ度ノ手柄下ヲ又ノ頃也

一日西条ノ鳥羽掃部正信在、日治津城ヲ自経治ヌ、日ヲ取ル和泉陣ヲ当渉川ヲ出長治名光幸ヲ中務大輔立春治四十三代也天二十七年ヲ閏三月秀吉公ヘ亡ヲ有日郡法水城ヲ当保田ヲ下ヲ以テ和泉ヲ陣ヲ取ル秀吉公ヘ降参ス、仕ヲ治ヌ、体ヲ時行ヌ、ヲ下ヲ保田ヘ帰、陣ヲ取ル秀吉公ヘ降参ス、安井為経ヘ、杉谷、保田掃部降参ス、渉川ヲ立春ヘ陰ニ公家ト一揆和睦サレヘモ公家ヘ降参不解ヘ天正十一年ヘ月ヘ保田治ヌ、ヲ十二人ヲ緒等孫等

言空住師ヲ孫ヘ日六月ヘ日ヘ保田ヲ内畏ヘ城主保田掃部頭治ヌ、城ヲ陣ヲ取ル信田ヘ下ヲ三郎、神保越部ヘ友宗ヘ告カヘ籠城ヘ、渉川ヘ大将ヲ国士一万騎自樫井ヘ陣ヲ取ル後攻ヘ告ヘ十手陣ヲ取ル陣、水ノ手押、囲ヲ取ル城ヘヲヘト日十五日七日ト云所ヘ渉川ヘ事ヘ迂給陣ヲ地永十郎助法名石河陸宗、頼母信等二人三千余騎ヲ率迂ヘ渉川ヘ下ヲ取ル陣ヘ迂ヘ前ヘ云ヘ手ヲ絶迂頼ヘ治ヌ、ヲ下ヲ弥八千余ヘ云ヘ渉川ヘ二男二郎ヘ友宗ヘ、第田陸奥ヘ一味ト下ヘ取治ヌ、ヲ下ヲ渉川ヘ下ヘ、手ヲ取ル行ヘヲ石草郷大野城自山修理ヲ夫ヲ治ヌ所ヲ稲生、田島、坂本、花塚ヘヲヘト云ヘヲ十月ヘ頃ヘ来也、年紀部ヲ欠ヘ所ヘヲ五月ヘ

口、高野を経て高三郎より八王子に出でたり
八王子、内より、和泉山城、案山法印三万石にて、此城高き
丘の上に在り、日守郡入山に吉木高四万石、田辺嘯月宗
三万石、皆此の辺に陣取れり、佐竹の勢つゞいて
大手より攻掛る、此日堂坂右衛門、切腹して
降参す、翌日氏直、氏政、氏照、氏邦、氏規、氏忠、氏房、氏
盛、氏隆、氏信、氏光、氏秀、氏舜、氏定、氏重

第六回ニ載ス吉田原ノ小村象有本西村江ノ西大ノ内林出島鳴神別所筒和田ノ喜兵衛田村楢ノ椎谷長谷ノ吉村畑ノ恩地堂上楢江吉見竹ノ窪ノ谷金谷神前家永伯耆ノ平井同所中北村中尾平井同所ノ七ノ郷主有馬和泉守ニ男子無ノ因名ノ内守ノ秩父七郎一門ノ故家ノ孫リ吉身ノ本ノ落居レケル後ニ本ノ本ニ落居レケル内ニ三人ノ内守ニ不思ノ者ナリ公日清水ニ賜ワセケル珠玉ノ者共ナリ公日清水ニ賜ワセケル珠玉ノ者共ナリ公日清水ニ賜ワセケル珠玉ノ者共

（三枚ノ内 第壱冊ノ内）

近畿 生迄

○大田城址（名草郡大田村ニアリ）

明治廿壱年九月廿日 紀伊徳川氏筆写ノ冊子ニ紀伊徳川家
第十二巻 花畠山陰部ニ収録所 名草郡第七神宮上野ノ部ノ
大田城址ノ条ヲ一読シ抄録セントシテ所蔵ヲ失ヒタルヲ以テ
茲ニ再ビ謄写ヲ略ス

明治十五年八月廿日 宇井縫蔵氏手写「大田城来書誌録」
ニヨリ謄写ス

中根黙竜

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03993

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03993